仙台市文化財調査報告書第 358 集

郡山遺跡第144次調査

―仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ―

2010 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

独立行政法人　都 市 再 生 機 構

SD１溝跡出土須恵器

確認調査９トレンチ出土縄文土器

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。当教育委員会といたしましても、先人たちの貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら次の世代に継承していけるよう努めているところであります。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた郡山遺跡の西側に位置し、平成10年から進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴う、平成13年度の郡山遺跡の調査成果をまとめたものです。

区画整理事業に伴う調査では、総数500軒近くの竪穴住居跡が発見されており、飛鳥～奈良時代の集落としては、東北地方でも最大級の集落がこの事業地内にあったことが明らかになってきました。しかもこの集落は、郡山遺跡の官衙の造営や運営に携わった人々の計画的に造られた集落であり、出土遺物の内容からは、関東地方との人的・物的交流があったことなども考えられております。

さらに官衙に関係する遺構としては、Ⅱ期官衙外溝西辺と北西コーナー部、今回報告したⅠ期官衙に関連する溝跡を発見するなど、調査の開始から10年を経て、官衙の構造に係わる発見だけでなく、これまで未解明であった郡山遺跡官衙の周辺での人々の生活が、我々の目の前に姿を現してきております。

当教育委員会では、発掘調査状況の公開・活用を進めるため、調査の概要を紹介する広報板の掲示や遺跡見学会の開催など、今後もより多くの市民の皆様に興味を持っていただけるような活動を行っていきたいと考えております。そのためにも、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しまして、ご指導、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成22年3月

仙台市教育委員会
教育長　荒井　崇

例　　言

1．本書は、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴い、平成 13 年に仙台市教育委員会が実施した郡山遺跡（第 144 次調査）の発掘調査の成果についてまとめたものである。

2．本書の刊行にあたっては、仙台市教育委員会文化財課　工藤信一郎、荒井格の監理の下、遺物実測・トレース、遺構図トレース、遺物写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。

3．本書の執筆については、第Ⅰ・Ⅲ章を工藤、第Ⅱ章１・２、第Ⅷ・Ⅸ章を藤田、第Ⅱ章３・第Ⅳ～Ⅵ章を福井が担当した。

4．自然科学分析については、プラント・オパール及び花粉分析を株式会社古環境研究所に依頼した。

5．調査成果については、すでに現地説明会資料などに内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先するものである。

6．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．遺構図中の座標系は、「平面直角座標第Ｘ系」を基準としている。図中及び本文記載の方位北は、全て座標北を基準としている。

2．本文中の土色の記述には、原則として「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄　1997）を使用している。

3．調査において検出された遺構については以下の遺構番号を使用し、遺構ごとに番号を付した。

　ＳＤ：溝跡　　ＳＥ：井戸跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＸ：性格不明遺構　　Ｐ：ピット

4．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、遺物ごとに番号を付した。

　Ａ：縄文土器　　Ｂ：弥生土器　　Ｃ：土師器（非ロクロ）　　Ｅ：須恵器

　Ｇ：瓦　　Ｋ：石器・石製品　　Ｎ：金属製品　　Ｐ：土製品

5．遺物実測図に使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。

　土師器黒色処理　　礫石器磨り面　　溶解物付着

6．遺物実測図の縮尺は、以下のとおりである。但し、その縮尺では掲載が困難なものについては、適宜縮尺を変えている。各図にはそれぞれスケールを付した。

　土器類・土製品・礫石器・金属製品　１／３　　剥片石器・古銭　１／２

7．掲載した遺物写真の縮尺は、原則として実測図と同じ縮尺とした。但し、その縮尺で掲載が困難なものについては、適宜縮尺を変えている。

目　　次

巻頭カラー
序　文
例　言
凡　例
第Ⅰ章　調査に至る経過 …… 1
　1．調査事由 …… 1
　2．調査要項 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 2
　1．位置と地理的環境 …… 2
　2．歴史的環境 …… 4
　3．郡山遺跡のこれまでの調査成果 …… 5
第Ⅲ章　調査の方法と概要 …… 6
　1．調査の方法 …… 6
　2．調査概要 …… 6
第Ⅳ章　基本層序 …… 8
第Ⅴ章　確認調査区の検出遺構と出土遺物 …… 9
　1．1トレンチ …… 10
　2．2トレンチ …… 12
　3．3トレンチ …… 14
　4．4トレンチ …… 15
　5．5トレンチ …… 17
　6．6トレンチ …… 18
　7．7トレンチ …… 20
　8．8トレンチ …… 22
　9．9トレンチ …… 24
第Ⅵ章　本調査区の検出遺構と出土遺物 …… 29
　1．溝跡 …… 29
　2．井戸跡 …… 30
　3．性格不明遺構 …… 30
第Ⅶ章　自然科学分析 …… 45
第Ⅷ章　出土遺物と検出遺構について …… 52
　1．出土遺物について …… 52
　2．検出遺構について …… 59
第Ⅸ章　調査成果のまとめ …… 61
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　調査地点位置図 …… 2
第２図　郡山遺跡及び周辺の遺跡位置図 …… 3
第３図　調査区全体図 …… 7
第４図　確認調査区配置図 …… 9
第５図　１トレンチ平面図・出土遺物 …… 10
第６図　１トレンチ土層断面図 …… 11
第７図　２トレンチ平面・土層断面図 …… 12
第８図　２トレンチ出土遺物 …… 13
第９図　３トレンチ平面･土層断面図･出土遺物… 14
第10図　４トレンチ平面図 …… 15
第11図　４トレンチ土層断面図 …… 16
第12図　４トレンチ出土遺物 …… 16
第13図　５トレンチ平面・土層断面図 …… 17
第14図　６トレンチ平面図 …… 18
第15図　６トレンチ土層断面図 …… 19
第16図　６トレンチ出土遺物 …… 19
第17図　７トレンチ平面図 …… 20
第18図　７トレンチ土層断面図 …… 21
第19図　８トレンチ平面図 …… 22
第20図　８トレンチ土層断面図・出土遺物 …… 23
第21図　９トレンチ平面・土層断面図 …… 25.26
第22図　９トレンチ遺物出土状態図 …… 27
第23図　９トレンチ出土遺物 …… 28
第24図　本調査区遺構配置図 …… 31.32
第25図　ＳＤ１～６溝跡・SD ６ピット１ …… 33
第26図　ＳＤ１溝跡出土遺物（１） …… 35
第27図　ＳＤ１溝跡出土遺物（２） …… 36
第28図　ＳＤ１溝跡出土遺物（３） …… 37
第29図　ＳＤ１溝跡出土遺物（４） …… 38
第30図　ＳＤ１溝跡出土遺物（５） …… 39
第31図　ＳＤ１溝跡出土遺物（６） …… 40
第32図　ＳＤ１溝跡出土遺物（７） …… 41
第33図　ＳＤ２溝跡出土遺物 …… 43
第34図　ＳＤ５溝跡出土遺物 …… 43
第35図　ＳＤ６溝跡出土遺物 …… 43
第36図　ＳＥ１・２井戸跡平面・土層断面図 … 44
第37図　ＳＸ１・２性格不明遺構平面・
土層断面図 …… 44
第38図（図１）郡山遺跡（２丁目地区）におけ
るプラント・オパール分析結果 …… 47
第39図（図２）郡山遺跡、第９トレンチ東壁
における花粉ダイアグラム …… 50
第40図　土師器分類図 …… 53
第41図　須恵器分類図 …… 55
第42図　ＳＤ１溝跡遺物出土状態図 …… 58
第43図　Ⅰ期官衙との位置関係図 …… 60

第Ⅰ章　調査に至る経過

１．調査事由

「仙台市あすと長町土地区画整理事業」は、仙台市太白区長町に計画された「長町地区新都市整備計画」に伴い実施されることになった事業である。事業計画地内には、周知の遺跡として西台畑遺跡・郡山遺跡が所在していたが、長町駅東遺跡は、平成３年及び４年に旧国鉄貨物ヤード跡地を対象に実施された確認調査によって発見された遺跡である。その後、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅･都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）は本事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業地内の計画路線にかかる西台畑遺跡・長町駅東遺跡及び郡山遺跡の一部について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は事業計画の進行に合わせて実施することとし、平成 10 年の西台畑遺跡の調査から開始した。郡山遺跡については、平成 13 年から区画整理事業地内区画道路を対象として、今回報告する 22 ～ 25 街区内の道路計画部分から調査を開始し、これまでに下記の調査を実施している。

仙台市あすと長町関係郡山遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調　査　事　由	調　　査　　成　　果
平成13年 （2001）	144次調査	22～25街区区画道路	Ⅰ期官衙関連溝跡・溝跡7条・井戸跡2基 縄文～弥生時代遺物包含層
平成16年 （2004）	167次調査	長町八木山線・環状線	住居跡17軒・掘立柱建物跡8棟・溝跡9条･土坑10基 河川跡（広瀬川？）
平成17年 （2005）	167次調査	長町八木山線	住居跡6軒・掘立柱建物跡1棟・土坑 Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部・河川跡（広瀬川？）
平成18年 （2006）	180次調査	21街区道路拡幅	住居跡11軒・掘立柱建物跡1棟・溝跡6条 河川跡（広瀬川？）
平成20年 （2008）	196次調査	環状線東	古代の遺構検出無・河川跡 縄文～弥生時代遺物包含層
平成21年 （2009）	196次調査	環状線東	住居跡9軒・掘立柱建物跡6棟・溝跡27条・土坑 水田跡（弥生時代中期）

２．調査要項

遺跡名：郡山遺跡（仙台市文化財登録番号Ｃ－１０４）

所在地：仙台市太白区郡山二丁目

（1）平成 13 年度調査体制

調査期間：2001 年（平成 13 年）8 月 6 日～ 2001 年（平成 13 年）12 月 19 日

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　主事　工藤信一郎　文化財教諭　藤井勝哉

主任　荒井　格

調査対象面積　３，５００㎡　　本調査面積　２，８００㎡

下層調査（弥生時代遺物包含層）　２６８㎡　（縄文時代遺物包含層）　８４㎡

（2）平成 21 年度調査報告書作成体制

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　主査　荒井　格　主任　工藤信一郎

整理体制：(株)シン技術コンサル　統括責任者・主任調査員　藤田亮一

調査員　菊池康一郎（7 月まで）　福井流星（8 月から）　計測員　松田秀貴

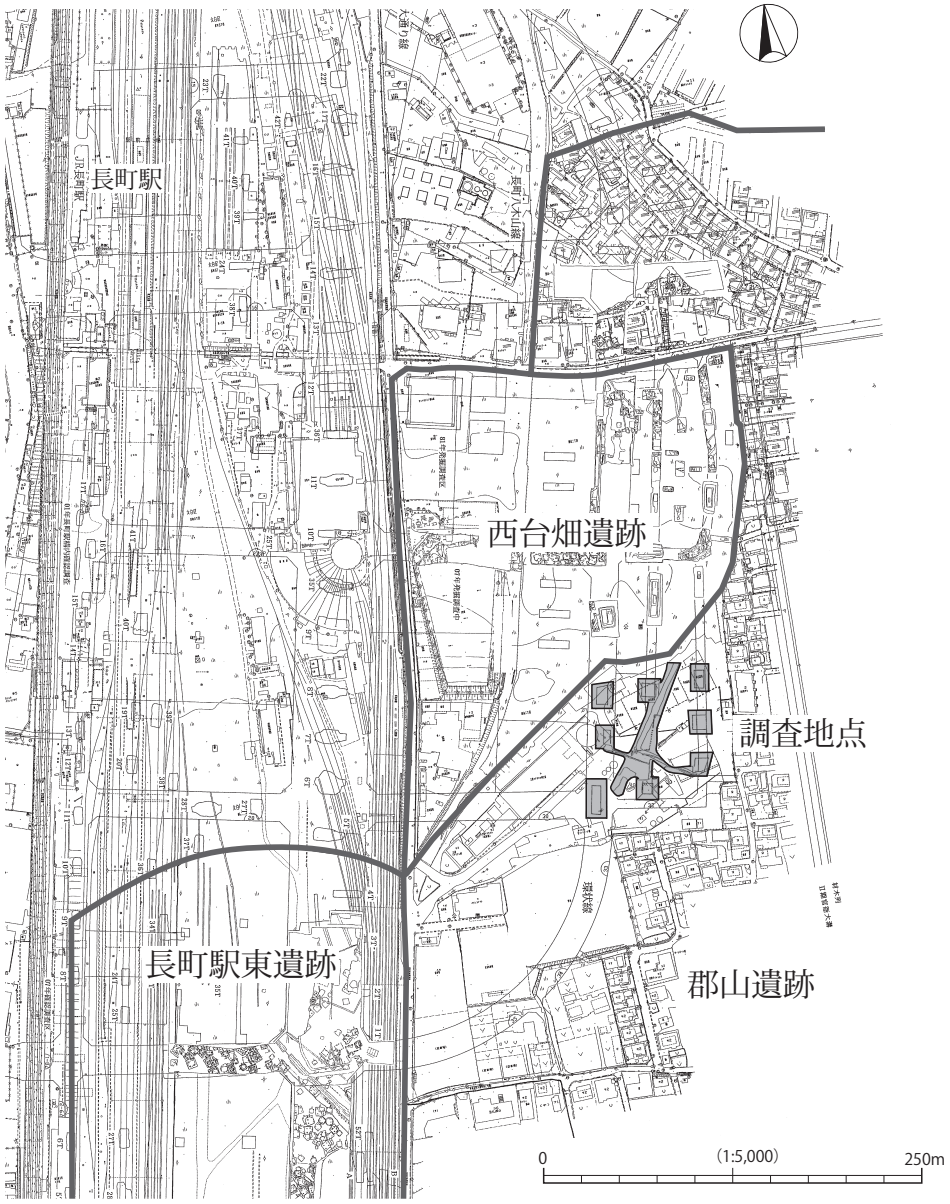
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

１．位置と地理的環境

郡山遺跡は仙台市の南東部、太白区郡山二丁目～六丁目に所在する遺跡である。遺跡の範囲は東西 800 m、南北 900 mで、面積は約 60 万㎡に及ぶ。調査地点はＪＲ長町駅から南東約 450 mに位置し、本遺跡の西端部分にあたり北側は西台畑遺跡に隣接する（第１・２図）。

宮城県中央部の地形は、山形県境沿いに南北に連なる奥羽山脈と、ここより派生する青葉山丘陵・高館丘陵と、東に広がる宮城野海岸平野と呼ばれる沖積平野からなる。この平野は、地理的条件・成因・地質などから地形区分されており、仙台市南部の広瀬川と名取川の合流点の両河川に挟まれた一帯を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼んでいる。

郡山遺跡は、このなかの郡山低地の中央からやや東寄りに位置し、北東を流れる広瀬川右岸にあたり、標高８～11 mの自然堤防と後背湿地上に立地している。



第１図　調査地点位置図

国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を使用

No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代	No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	郡山遺跡	官衙・寺院	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
2	西台畑遺跡	集落跡	自然堤防	弥生・古墳	22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
3	長町駅東遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	弥生～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
4	北目城跡	城館	自然堤防	中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
5	富沢遺跡	包含地・集落跡	後背湿地	旧石器～近世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
7	山口遺跡	包含地・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	29	南小泉遺跡	集落跡	自然堤防	弥生～中世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
16	王ノ壇遺跡	墓域	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	36	土手内横穴群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	37	富沢館跡	城館	自然堤防	中世
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	38	大塚山古墳	円墳	自然堤防	古墳
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	39	日辺遺跡	集落跡	河川敷	古墳
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	40	大野田官衙遺跡	官衙	自然堤防	古墳～奈良

第２図　郡山遺跡及び周辺の遺跡位置図

２．歴史的環境

仙台市南部の太白区内には、名取川の両岸や青葉山丘陵の先端にあたる向山・土手内の丘陵部にかけて多くの遺跡が所在している。ここでは広瀬川と名取川の合流点を中心に、代表的な遺跡を概観してみる（第２図）。

＜旧石器時代＞

本遺跡の西側には富沢遺跡（５）があり、約２万年前の後期旧石器時代の地層から多数の石器が出土している。また、火を焚いた跡、樹木・木葉・種子などの植物化石や動物の糞などが発見され、当時の人類活動の様子や湿地帯の自然環境を窺うことができる。

＜縄文時代＞

名取川の支流で北側を流れる笊川の両岸には､山口（７)･下ノ内浦（８)･大野田（10)･袋前（11)･六反田（12)･下ノ内（13)・伊古田（14)・王ノ壇（16）などの遺跡群が集中している。下ノ内浦遺跡では後期の墓壙群、大野田遺跡では後期の環状集石群が発見され、墓域などと祭祀の場であったことが確認されている。また、六反田遺跡では中期の竪穴住居跡が発見されている。

＜弥生時代＞

西台畑（２)・長町駅東（３)・富沢・山口・大野田・中柵西（25)・南小泉（29）遺跡などがある。本遺跡の北側に隣接する西台畑遺跡では、昭和 32 年粘土採掘時に土器棺墓が発見されている。また、西側に隣接する長町駅東遺跡４区では水田跡・土器埋設遺構・土壙墓などの遺構と、それらに伴って土器・石器・玉類などが出土している。富沢遺跡では広範囲にわたる水田跡が発見され、東北地方の稲作文化を考える上で貴重な遺跡となっている。

＜古墳時代＞

鳥居塚（15)・遠見塚（28)・兜塚（32)・一塚（33)・二塚（34)・砂押（35)・大塚山（38）古墳や、土手内横穴群（36)・大野田官衙遺跡（40）などがある。遠見塚古墳は、東北でも有数の規模を誇る前期末～中期初頭にかけての前方後円墳である。古墳の周辺に広がる南小泉遺跡では､古墳時代全般にわたる集落跡が確認されており、当該期の中心的地域と考えられている。また、東側に位置する大年寺・愛宕山の丘陵地斜面では無数の横穴墓が造られており、副葬品の内容から郡山遺跡官衙に関係した人々の集団墓地の可能性が指摘されている。大野田官衙遺跡からは、これまでに溝跡に囲まれた大型の掘立柱建物跡が６棟発見され、規則的な配置や規模の大きさ、総柱式の倉庫風の建物跡があることなどから官衙跡の存在が想定されていた。建物の基準が真北であることや、８世紀前半代に機能を終えていることなどから、北東に約 1.5㎞離れた郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する施設で、各種の行政事務を執り行う「曹司」の可能性が考えられており、今年度遺跡登録された。

＜奈良時代＞

本遺跡の北東側に陸奥国分寺、陸奥国分尼寺などが造られる。大規模な集落跡は確認されていないが、下ノ内浦･元袋（９)・六反田・伊古田遺跡などからは竪穴住居跡が発見されており、小規模集落の存在は確認されている。

＜平安時代＞

この時代になると、自然堤防上で竪穴住居跡が増加し集落も拡大してくるが、本遺跡周辺では水田跡の形成が多くみられ、集落としての痕跡は減少している。生産跡として富沢・山口遺跡で、水田跡が検出されている。

＜中　世＞

北目城跡（４)・富沢・山口・王ノ壇・欠ノ上Ⅰ（19)・南小泉遺跡・若林城跡（30）などがある。沖積平野上に城館跡や屋敷跡が発見されており、山口･南小泉遺跡では屋敷跡、王ノ壇遺跡では多数の掘立柱建物跡･井戸跡･墓跡や信仰に関連する遺構・遺物などが検出されている。富沢・欠ノ上Ⅰ遺跡では、水田跡が検出されている。

＜近　世＞

伊達政宗が仙台城に移る前に一時入城したとされる北目城跡は、本遺跡の東側に隣接している。さらに広瀬川を

挟んだ北側には、正宗の隠居城として造られたとされる若林城跡が位置している。

３．郡山遺跡のこれまでの調査成果

郡山遺跡の発掘調査は、昭和 54 年（1979）の宅地造成に伴う事前調査によって、官衙の存在を示唆する掘立柱建物跡や円面硯などが発見されたのを契機に調査が開始された。翌年からは、遺跡の範囲や性格究明のための国庫補助事業による調査が継続的に行われている。平成 18 年（2006）には古代国家成立に関わる重要な遺跡であることから「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国史跡に指定された。以下、これまでの調査成果により明らかとなった点を略述する。なお、詳細については、仙台市文化財調査報告書第 283 集「郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－」を参照していただきたい。

①官衙は「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の２時期があり、Ⅰ期官衙は７世紀中頃～７世紀末にかけての陸奥国の建国に関わった重要な柵跡、Ⅱ期官衙は7世紀末～多賀城創建期までの陸奥国府跡と考えられる。

②Ⅰ期官衙は真北から東へ30～40°（西に50～60°）振れた方向を基準に造られ、規模は東西300m、南北600m程で、材木列や溝跡で区画された方形の院が連結して構成される。院は機能ごとに形成されており、中枢部、倉庫院、雑舎院や居住域と考えられる竪穴住居群などが検出されている。

③Ⅱ期官衙はⅠ期官衙を取り壊して真北を基準に造られ、方四町Ⅱ期官衙・南方官衙・郡山廃寺・寺院西方建物群・寺院東方建物群から構成される。

④方四町Ⅱ期官衙の外郭は材木列・大溝・外溝により構成される。外溝内側の一辺は約533mで、この区画の大きさは、藤原京の条坊区画線の一単位分の長さと同じであることから、設計段階で藤原京との関連性が考えられている（註１）。内部には政庁があり、中央南寄りに四面廂付建物の正殿、その前面に「ロ」字形に建物が配置され、さらに、その東西には楼閣を含む建物群が東西対称に整然と配置される。また、正殿の北東後方には他の地方官衙では類例のない石組池・石敷遺構が配置されており、蝦夷への饗給・儀式が執り行われていたと考えられている。

⑤南方官衙は方四町Ⅱ期官衙外溝の南側に位置する建物群で、方四町Ⅱ期官衙内部の建物と同等或いはそれ以上の規模のもので構成される。現時点では建物の性格などについて不明な点が多いが、その規模から重要な機能を果たしていたと推定されている。

⑥郡山廃寺は南方官衙の南側に位置し、東西120～125m、南北167mを材木列で区画され、その内部に伽藍が配置される。検出された遺構は講堂、区画溝跡（推定金堂跡）、僧房、南門、北西隅門、井戸跡などがある。塔は確認されていないが、講堂の南東、寺院区画中心線上に位置する畑地に戦前まで巨石が露出していたという伝承があることから、塔が存在したと推定されている。伽藍配置は東に塔、西に金堂、北に講堂を配置するもので、主要伽藍を囲う回廊はなく、全国的にみても類例の少ない伽藍配置といえる。

⑦寺院西方建物群は郡山廃寺の北西に位置する建物群で、材木列により区画される。検出されている遺構は総柱建物跡が多く、倉庫群の可能性が考えられている。寺院東方建物群は郡山廃寺の東側に位置する建物群で、溝により区画される。建物の規模が小さく、土器の出土量が他の地区に比べ多いことから、官人層の居住域と推定されている。

註１：『仙台市文化財調査報告書第347集　郡山遺跡29　平成20年度発掘調査概報』
「第6章　総括」（2009）

第Ⅲ章　調査の方法と概要

１．調査の方法

（1）調査区の設定

今回の調査は、区画整理事業地内の東側に位置する22～25街区内に計画された区画道路を対象に調査を実施することとなった（註１）。調査対象地は、調査直前までセメント工場が操業しており、過去に工場造成に伴う大規模な撹乱を受け遺構面に大きな影響を受けていることが想定された。本調査区の設定にあたっては、事前に試掘調査を行い遺構面の遺存状況などを確認し、調査計画を立案することにした。

２．調査概要

（1）調査経過

試掘トレンチによる確認調査を行い、その結果対象区域の全域で表土下約１m～1.5mに大規模な撹乱が確認され、本来の古代の遺構面については削平を受けていると判断されたが、全長62.5mにおよぶ溝跡の底面が残存していることが確認された。検出された溝跡の位置や方向を確認したところ、郡山遺跡Ⅰ期官衙西辺推定ラインから約75mに位置し、南北方向では官衙西辺に並行していることが明らかになった（註2）。

試掘調査成果

①対象区域の全域で表土下約１m～1.5mに及ぶ大規模な撹乱が確認され、本来の古代の遺構面については削平を受けている。

②大規模な溝跡の底面が残存していることが確認された。検出された溝跡の位置や方向を確認したところ、郡山遺跡Ⅰ期官衙西辺推定ラインから約75mに位置し、南北方向では官衙西辺に並行していることが明らかになった。

③古代の遺構が確認されなかったトレンチでは下層調査を実施し、南側の9トレンチで縄文～弥生時代の遺物包含層が確認された。

そこで今後の調査について、事業者である住宅都市整備公団と協議を行い、今回の調査については、竪穴住居跡などの遺構がなく溝跡の調査が主となることから、本来の調査区域である道路部分だけでなく、宅地部分も調査対象に加えて可能な範囲で溝跡の延長を調査し、遺構の性格を明らかにしていくこととした。

遺物包含層の確認された9トレンチについては、南側に拡張を行い、下層調査区を設定し、弥生時代中期桝形囲式期および縄文時代晩期後葉の遺物包含層を検出した。

（2）測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第Ｘ系」を基準としている。５×10mを単位とする平面区配図を作成し、調査区北端を１とし、西端の46までの番号を付し遺構図面の作成を行った（第3図）。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

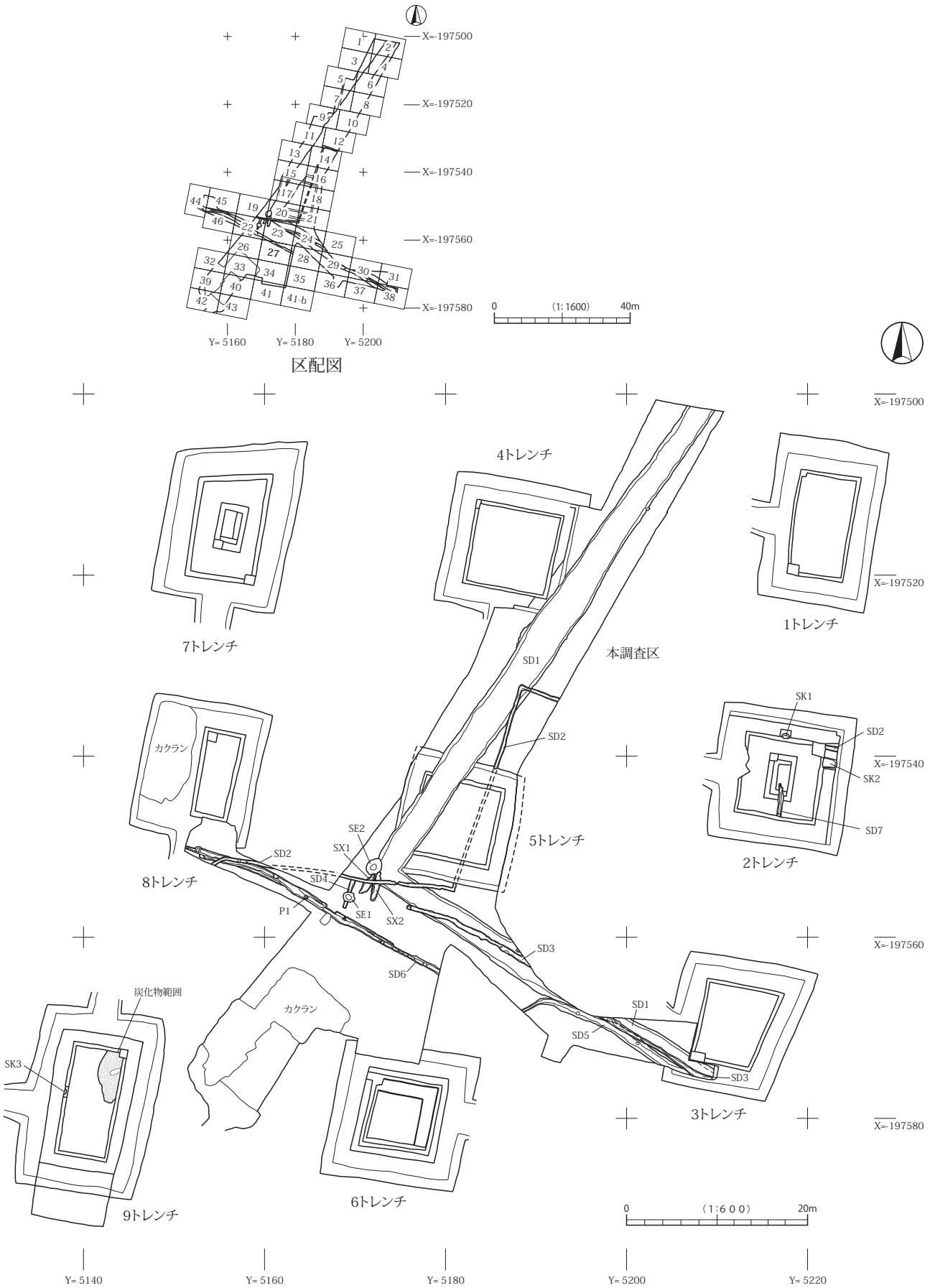
（3）遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。原則として、5×10m単位で取り上げている。特に必要と認められた遺物については、出土状態とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

（4）遺構登録番号

遺構登録番号については、郡山遺跡を対象としたあすと長町土地区画整理事業に伴う調査としては初年度であることから、それぞれ1番からの通し番号とした。


X=-197500
X=-197520
X=-197540
X=-197560
X=-197580
Y= 5160
Y= 5180
Y= 5200
0
(1:1600)
40m
区配図
4トレンチ
1トレンチ
7トレンチ
本調査区
SD1
SD2
SK1
SK2
SD7
2トレンチ
カクラン
5トレンチ
8トレンチ
SE2
SX1
SD4
P1
SE1
SX2
SD3
SD6
SD5
炭化物範囲
SK3
3トレンチ
6トレンチ
9トレンチ
0
(1:600)
20m
Y= 5140
Y= 5160
Y= 5180
Y= 5200
Y= 5220

第３図　調査区全体図

（5）調査報告書作成作業

調査報告書作成に伴う整理作業について、委託業務により実施することとした。整理作業は、出土遺物の基礎整理（水洗・注記・接合･修復）、弥生土器の拓本・断面実測、遺構図面基礎整理、記録写真整理までを仙台市が行い、出土遺物の登録・実測図作成・遺物図版の作成、遺構図面のデジタル化と遺構図版の作成及び原稿執筆を（株）シン技術コンサルが行った。その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、石器・弥生土器・土師器の実測図及びトレースについては、仙台市西台畑遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

註１：郡山遺跡については、遺跡の範囲と性格を明らかにするための調査計画を立案し、国庫補助事業として昭和55年（1980）以来継続的な調査を実施しており、調査次数が付与されている。今回の調査については、あすと長町土地区画整理事業の施行に伴う最初の調査であるが、郡山遺跡全体の調査次数では第144次調査として報告されている。

註２：郡山遺跡Ⅰ期官衙西辺推定ラインからの距離について、これまで約50mとして報告してきたが、今回の報告書作成に当たり図面を合成し測定したところ約75mであることが明らかになった。

第Ⅳ章　基本層序

調査は当初、遺構の広がりやその性格を把握するため、調査対象地区内の９箇所にトレンチを設定し、確認調査を行った（第４図）。調査区の標高は約 10m で、層厚約１m の整地土が堆積していた。分層は整地土より下層から行い、層番を付した。基本層序は１トレンチで６層、２トレンチで 13 層、３トレンチで６層、４トレンチで６層、５トレンチで５層、６トレンチで８層、７トレンチで 11 層、８トレンチで７層、９トレンチで７層に大別された。各トレンチで確認された基本層は、トレンチがそれぞれ 15 ～ 20m 程離れているため、土色、含有物などが若干異なるが、概ね対応関係にあると考えられる。

Ⅰ層　黒色を基調とするシルト或いは粘土質シルト層で、地点により３層または７層に細分される。グライ化が顕著な箇所ではオリーブ黒色を呈する。

Ⅱ層　黒褐色～灰黄色を基調とするシルト或いは粘土質シルト層で、地点により３層または５層に細分される。グライ化が顕著な箇所では暗緑灰色やオリーブ灰色を呈する。古代の遺構検出面。

Ⅲ層　黒褐色～暗灰黄色を基調とする粘土質シルト層で､地点により２層に細分される。SK ３（９トレンチ）検出面。

Ⅳ層　黒色～黄灰色を基調とする粘土質シルト層で、地点により土質が異なる。炭化物集中範囲検出面。

Ⅴ層　褐灰色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層で、地点により２層に細分され、土質が異なる。縄文時代晩期の遺物包含層。SD ７（２トレンチ）検出面。

Ⅵ層　黒褐色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層で、地点により土質が異なる。

Ⅶ層　褐灰色～灰黄色を基調とする粘土質シルト層。

Ⅷ層　黄灰色～灰色を基調とする砂質シルト層で、地点により土質が異なる。

Ⅸ層　黄灰色～明褐色を基調とする粘土質シルト或いは砂質シルト層。

Ⅹ層　灰色～オリーブ灰色を基調とする粘土質シルト或いは砂質シルト層。

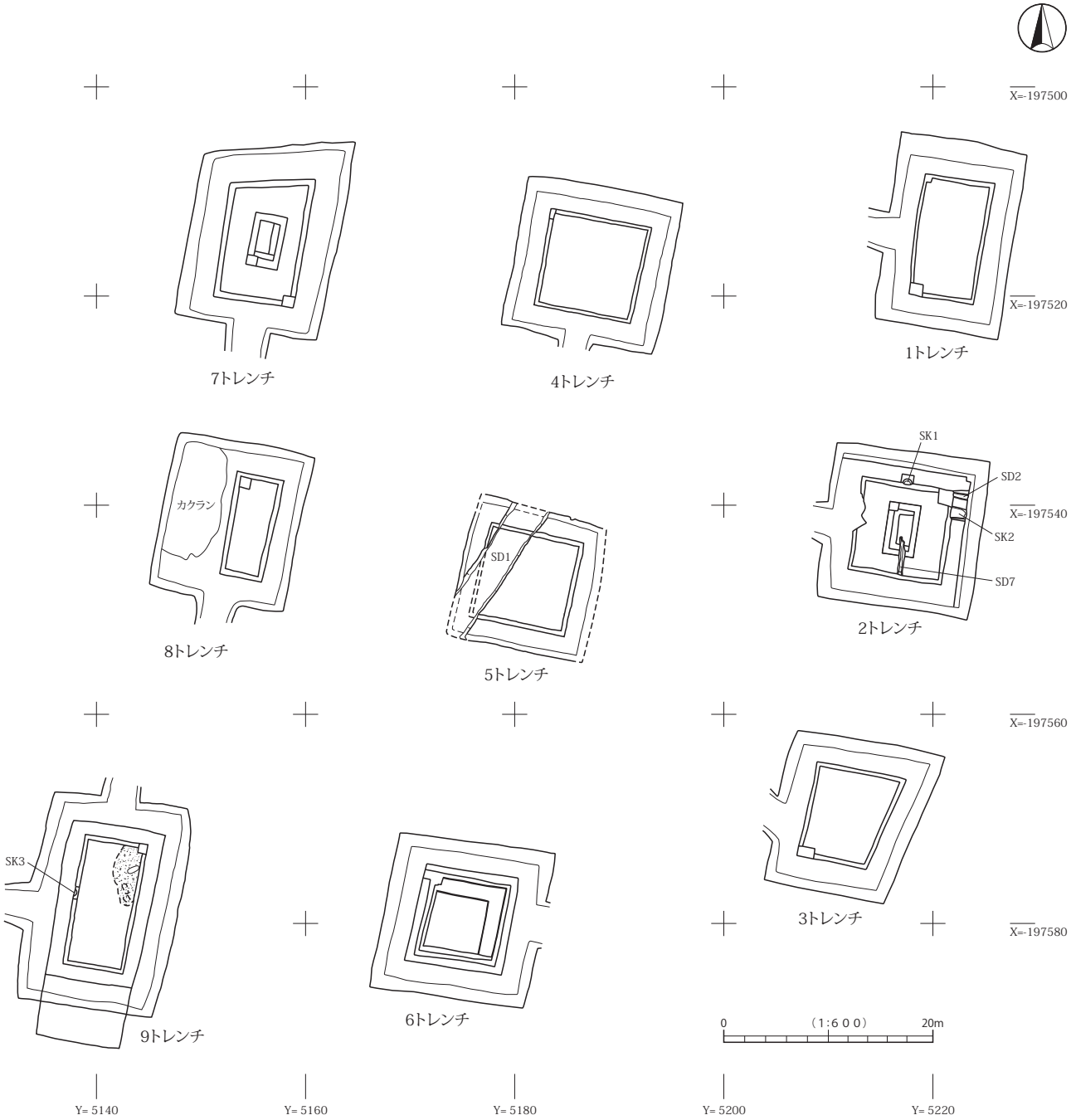
ⅩⅠ層　暗オリーブ灰色を基調とする砂或いは粘土質シルト層。

ⅩⅡ層　暗緑灰色粘土質シルト層。

ⅩⅢ層　緑灰色砂質シルト層。

第Ⅴ章　確認調査区の検出遺構と出土遺物

確認調査で検出された遺構は溝跡３条、土坑３基、性格不明遺構２基である。そのうち、５トレンチで検出した溝跡（ＳＤ１）はＩ期官衙西辺推定ラインから西側約 75m の地点を平行するように走行する大溝で、その規模や方向からＩ期官衙に関連する施設と考えられる。その他、古代以前の文化層の有無を確認するため、下層調査を行った結果、遺構は検出されなかったが、９トレンチで縄文時代晩期後葉の遺物包含層を１面確認した。



第４図　確認調査区配置図

１．１トレンチ（第４～６図、写真図版３・10）

調査対象地区内の北東に、東西 12m、南北 18m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅴ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。但し、調査区壁面の土層観察において水田土壌の可能性のある層（Ⅲ a･Ⅳ層）を確認したため、調査区東壁で土壌サンプルを採取し、プラント・オパール分析（第Ⅶ章）を行った。

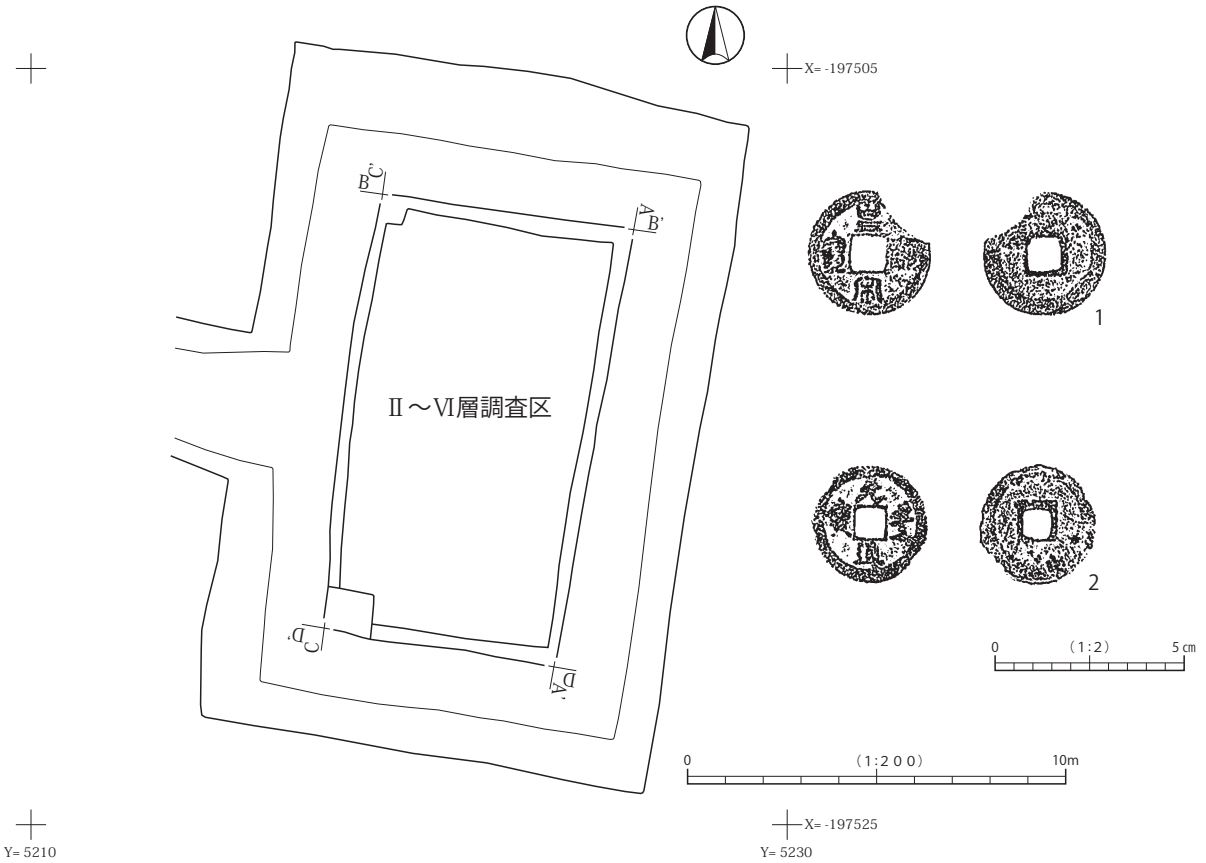
（１）基本層序

基本層はⅠ～Ⅵ層に大別された。Ⅰ層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、下部でⅡ a 層土を含む。層厚は５～ 25cm である。Ⅱ層は２層に細分され、Ⅱ a 層は暗緑灰色粘土質シルトを主体とし、酸化鉄の集積がみられる。調査区全面に堆積し、層厚は 13 ～ 37cm である。Ⅱ b 層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とする。部分的に堆積し、層厚は２～８cm である。Ⅲ層は２層に細分され、Ⅲ a 層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、下部でⅣ層土の撹拌がみられることから水田土壌の可能性が考えられる。層厚は３～ 15cm である。Ⅲ b 層はにぶい黄橙色粘土質シルトを主体とする。部分的に堆積し、層厚は２～ 10cm である。Ⅳ層は黒褐色粘土質シルトを主体とするⅢ層土との混土層で、水田土壌の可能性が考えられる。層厚は５～ 20cm である。Ⅴ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、上部でⅣ層土を含む。層厚は３～ 23cm である。Ⅵ層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする。

（２）遺構と遺物

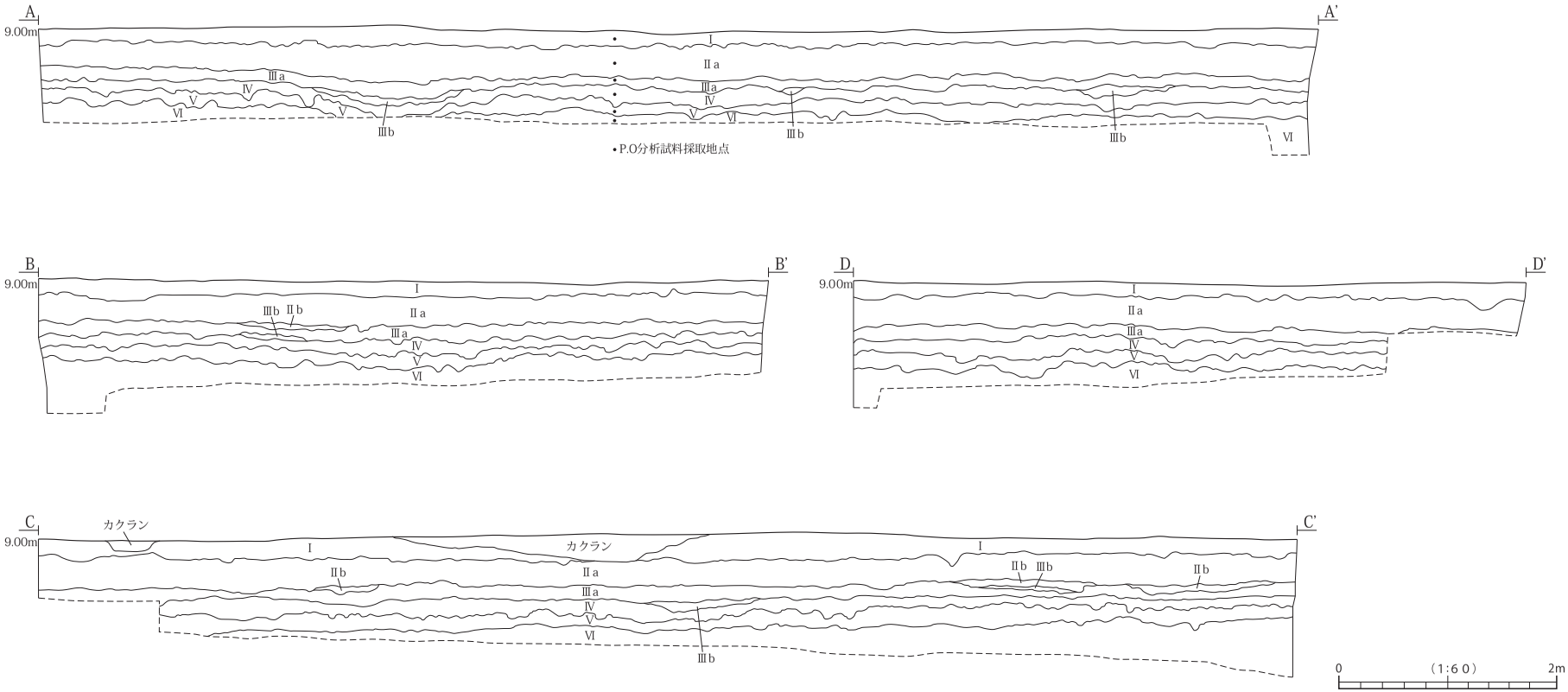
遺構　検出されなかった。

遺物　土師器、須恵器、金属製品が出土しており、そのうち、金属製品２点を図示した。１・２とも古銭で、側溝から出土しているため、側溝掘削時にⅠ層より混入したものと考えられる。１は皇宋通宝、２が元豊通宝である。



図版番号	登録番号	出土地点	層　位	種　別	器　種	長さ × 幅 × 厚さ（cm）	特　　徴	備　考	写真図版
1	N-3	側溝	－	金属製品	古銭	2.5 × 2.5 × 0.15	皇宋通宝（北宋）1038		10
2	N-2	側溝	－	金属製品	古銭	2.35× 2.35× 0.15	元豊通宝（北宋）1078		10

第５図　１トレンチ平面図・出土遺物



部位	層位	土色	土性	備考
A～D共通	Ⅰ	10Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	下部でⅡa層土を含む。グライ化顕著。
	Ⅱa	7.5GY4/1 暗緑灰色	粘土質シルト	上部で暗めの色調(5GY4/1 暗オリーブ灰色)、部分的に7.5GY4/1 暗緑灰色砂がレンズ状に堆積、グライ化顕著。酸化鉄の集積有り。
	Ⅱb	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y4/1 黄灰色土ブロック・マンガン斑・酸化鉄を含む。
	Ⅲa	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	マンガン斑・酸化鉄を含む。上部は明るめの色調(2.5Y6/1 黄灰色)、下部になるにつれ暗い色調になり、Ⅳ層土を巻き込む。水田土壌の可能性有り。
	Ⅲb	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	
	Ⅳ	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層土との混土。水田土壌の可能性有り。
	Ⅴ	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	上部でⅣ層土を含む。下部では砂質になる。
	Ⅵ	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	マンガン斑・酸化鉄を含む。

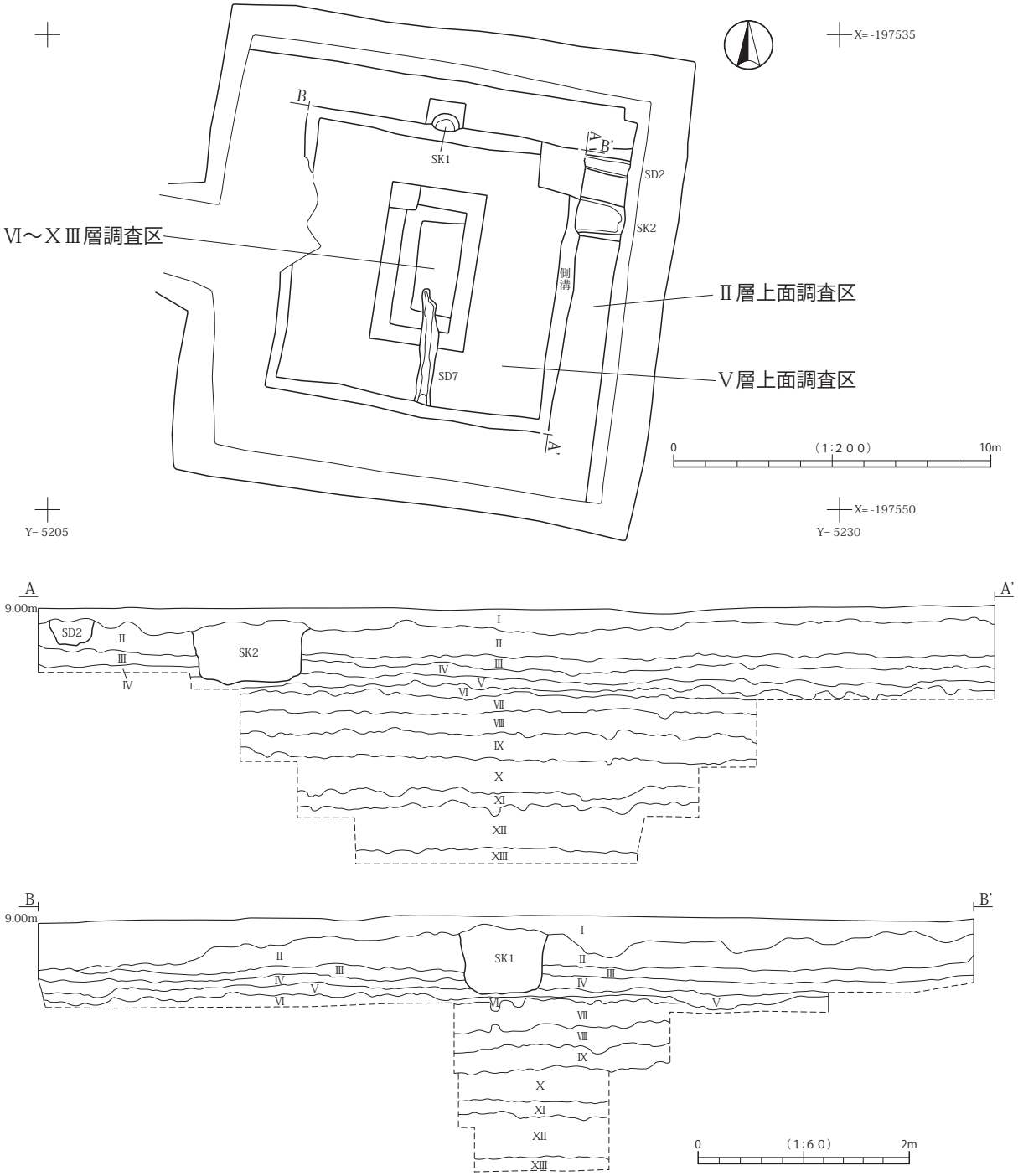
第６図　１トレンチ土層断面図

２．２トレンチ（第４・７・８図、写真図版３・10）

調査対象地区内の東に、東西 15m、南北 15m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅴ層上面で遺構検出を行い、Ⅱ層上面でＳＤ２、ＳＫ１・２、Ⅴ層上面でＳＤ７を検出した。ＳＤ２は本調査においても検出されているため、詳細は次章で記載する。

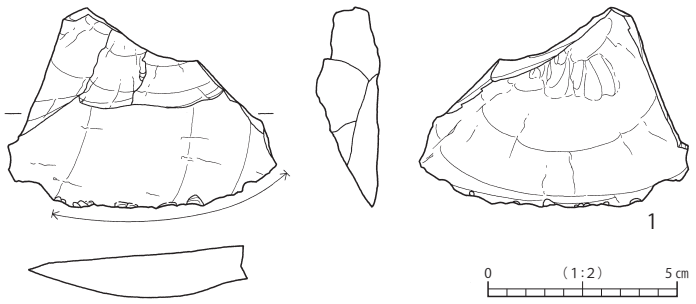
（１）基本層序

基本層はⅠ～ⅩⅢ層に大別された。Ⅰ層は黒色シルトを主体とし、下部でⅡ層土を含む。層厚は９～44cm である。Ⅱ層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は３～ 37cm である。Ⅲ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は４～ 15cm である。Ⅳ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は４～ 17cm である。Ⅴ層は灰黄褐色粘



第７図　２トレンチ平面・土層断面図

部位	層位	土色	土性	備考
A・B共通	Ⅰ	2.5GY2/1 黒色	シルト	下部で5Y3/1 オリーブ黒色土・Ⅱ層土を含む。
	Ⅱ	2.5GY5/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。上部でグライ化顕著。下部で2.5Y6/2 黄灰色土が層状に堆積。
	Ⅲ	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅳ	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅴ	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。下部で10YR6/1 褐灰色土が層状に堆積。
	Ⅵ	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。10YR4/1 褐灰色粘土を含む。
	Ⅶ	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	酸化鉄を全体に多量含む。やや砂質。
	Ⅷ	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。粘性が極めて強い。
	Ⅸ	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅷ層土・酸化鉄を全体に少量含む。
	Ⅹ	10Y4/1 灰色	粘土質シルト	
	ⅩⅠ	5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。
	ⅩⅡ	7.5GY4/1 暗緑灰色	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。
	ⅩⅢ	7.5GY5/1 緑灰色	砂質シルト	
SK1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	5GY5/1 オリーブ灰色土ブロック・Ⅱ層土ブロック・Ⅲ層土ブロックを含む。
SK2	1	5GY2/1 オリーブ黒色	シルト	酸化鉄を全体に少量含む。10GY4/1 暗緑灰色土ブロック・Ⅱ層土ブロックを含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Ｋａ-４	―	Ⅳ層	打製石器	剥片	5.3 × 7.1 × 1.7	41.6	流紋岩	末端に微細剥離有り	10

第８図　２トレンチ出土遺物

土質シルトを主体とし、下部で褐灰色土が層状に堆積する。層厚は４～11cm である。Ⅵ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、褐灰色粘土を含む。層厚は１～14cm である。Ⅶ層は黄灰色シルトを主体とし、層厚は 11 ～ 27cm である。Ⅷ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は 12 ～ 25cm である。Ⅸ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、Ⅷ層土を少量含む。層厚は 14 ～ 26cm である。Ⅹ層は灰色粘土質シルトで、層厚は 20 ～ 34cm である。ⅩⅠ層は暗オリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は７～ 19cm である。ⅩⅡ層は暗緑灰色砂質シルトを主体とし、層厚は 29 ～ 45cm である。ⅩⅢ層は緑灰色砂質シルトを主体とする。

（２）遺構と遺物

ＳＫ１土坑　調査区北側、Ⅱ層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸 86cm、短軸 55cm、検出面からの深さは 55cm である。推定される平面形は円形または楕円形で、断面形は箱型を呈する。堆積土は単層で褐灰色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロック・Ⅱ層土ブロック・Ⅲ層土ブロックを含む。遺物は出土しなかった。

ＳＫ２土坑　調査区北西側、Ⅱ層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸 156cm、短軸 112cm、検出面からの深さは 59cm である。断面形は箱型を呈する。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とし、暗緑灰色土ブロック・Ⅱ層土ブロックを含む。遺物は出土しなかった。

ＳＤ７溝跡　調査区南側、Ⅴ層上面で検出した。南側は調査区外へ延びる。検出した範囲での規模は長さ 3.6m、上幅 22 ～ 55cm、下幅７～ 26cm、検出面からの深さは２～７cm である。方向はＮ‐３°‐Ｅで直線状に走行する。断面形は皿形を呈し、底面は平坦である。遺物は出土しなかった。

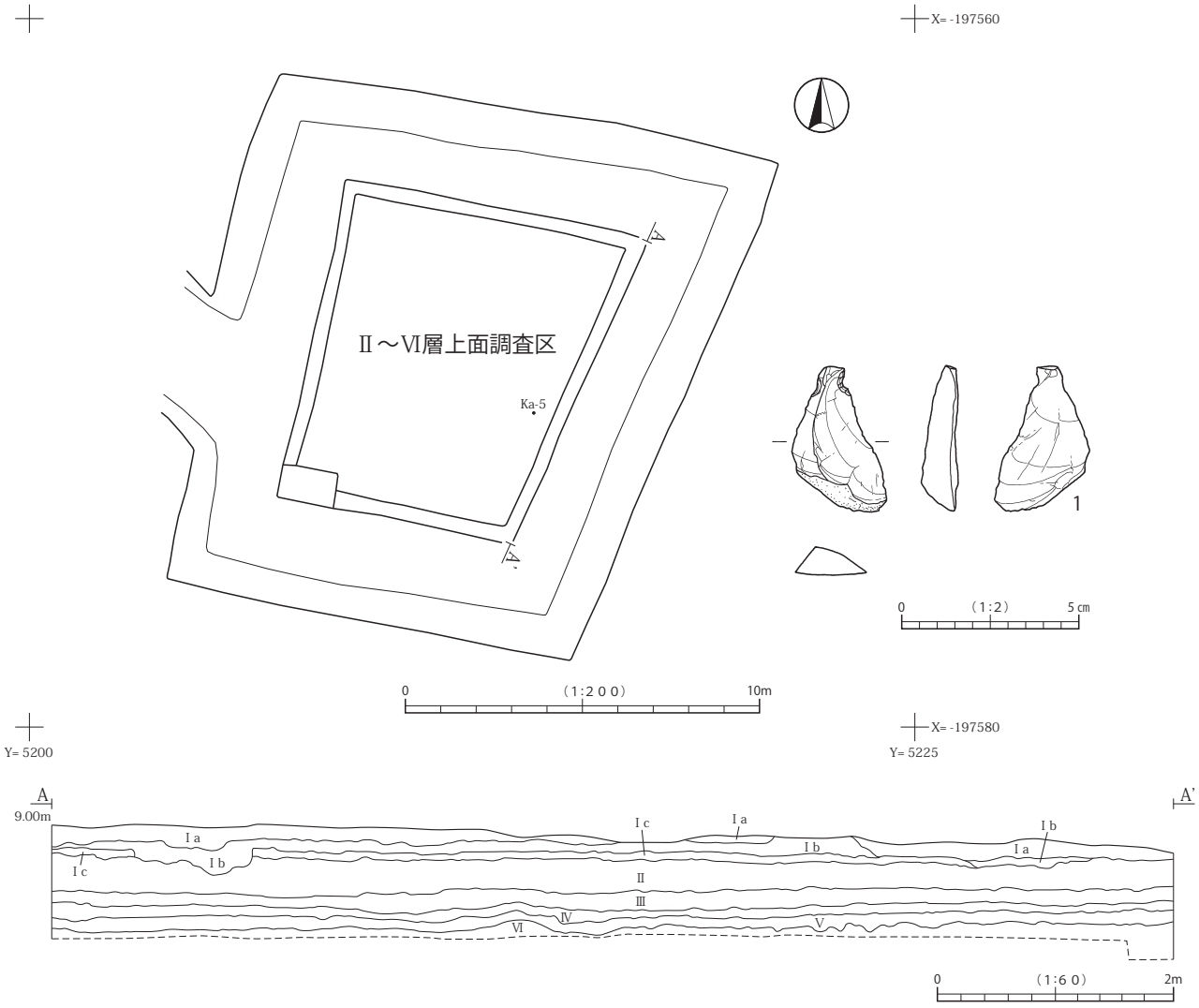
遺物　土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器１点を図示した。１は流紋岩製の剥片で末端に微細剥離を有する。

３．３トレンチ（第４・９図、写真図版４・10）

調査対象地区内の南東に、東西 11.5 ～ 14.2m、南北 15m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅴ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

（１）基本層序

基本層はⅠ～Ⅵ層に大別された。Ⅰ層は３層に細分され、Ⅰａ層はオリーブ黒色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロックを含む。層厚は２～ 19cm である。Ⅰｂ層はオリーブ褐色シルトを主体とし、Ⅰａ層土ブロック・Ⅰｃ層土ブロックを含む。層厚は２～ 25cm である。Ⅰｃ層は黒色粘土質シルトを主体とし、下面で褐色土ブロッ



遺構名	層位	土色		土性	備考
A - A'	Ⅰa	5GY2/1	オリーブ黒色	シルト	オリーブ灰色土ブロックを含む。
	Ⅰb	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	Ⅰa層土ブロック・Ⅰc層土ブロックを含む。
	Ⅰc	5Y2/1	黒色	粘土質シルト	下面で7.5YR4/4 褐色土ブロックを含む。
	Ⅱ	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。2.5Y3/1 黒褐色粘土を斑状に含む。上面で5GY6/1 緑灰色土が層状に堆積。
	Ⅲ	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅳ	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅴ	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。下面は乱れ、Ⅵ層土ブロックを含む。
	Ⅵ	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。マンガン斑を含む。砂質が強い。

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Ｋａ-５	―	Ⅱ層	打製石器	石匙	4.1 × 2.6 × 1.0	7.3	流紋岩	ツマミ部を作出し、自然面を残す	10

第９図　３トレンチ平面・土層断面図・出土遺物

クを含む。層厚は３～ 10cm である。Ⅱ層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を斑状に含み、上面では緑灰色土が層状に堆積する。層厚は 16 ～ 33cm である。Ⅲ層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は８～ 17cm である。Ⅳ層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は３～ 15cm である。Ⅴ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は４～ 15cm である。Ⅵ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、酸化鉄を多量に含む。

（２）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

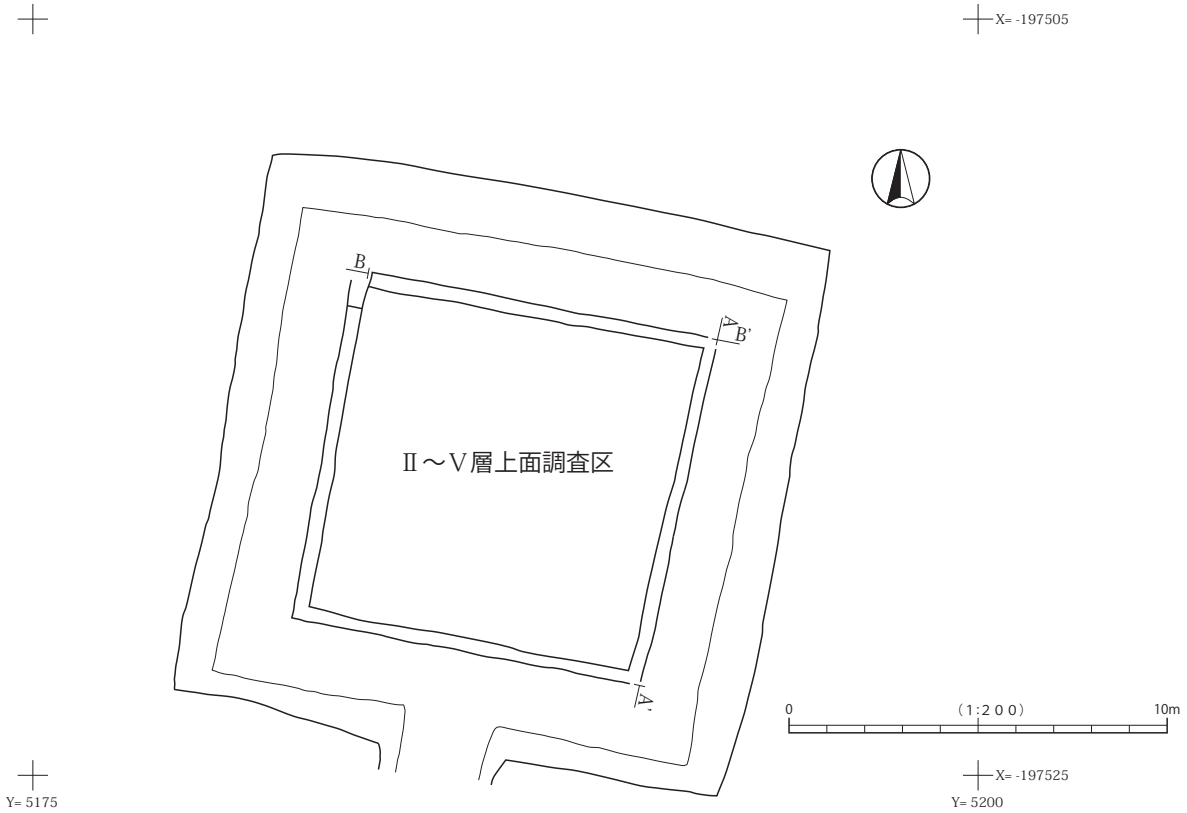
遺物　土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器１点を図示した。１は流紋岩製のツマミ部のみを作出した石匙である。

４．４トレンチ（第４・10 ～ 12 図、写真図版４・10）

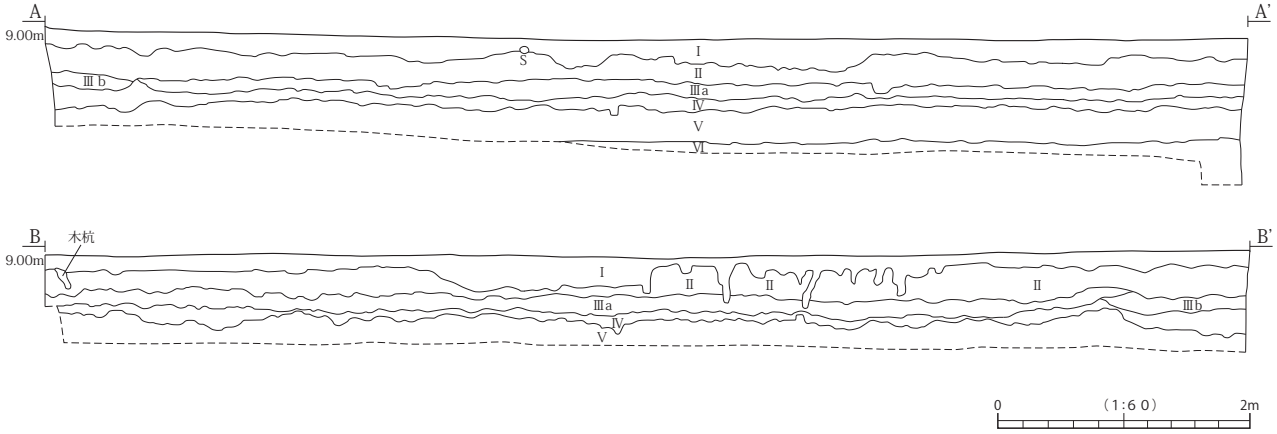
調査対象地区内の北に、東西 15m、南北 15m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅴ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

（１）基本層序

基本層はⅠ～Ⅵ層に大別された。Ⅰ層は黒色粘土質シルトを主体とし、下部で黒褐色土を多量に含む。層厚は４～ 28cm である。Ⅱ層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、下部でⅢ層土・酸化鉄を少量含む。層厚は２～ 30cm である。Ⅲ層は２層に細分され、Ⅲａ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、Ⅱ層土を疎らに少量含む。ほぼ調査区全面に堆積し、層厚は３～ 17cm である。Ⅲｂ層は灰黄色粘土質シルトを主体とする。調査区北側と南側に部分的に堆積し、層厚は８～ 15cm である。Ⅳ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、Ⅴ層土ブロックを含み、酸化鉄を斑状に含む。層厚は２～ 23cm である。Ⅴ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、Ⅳ層土ブロックを少量含む。



第 10 図　４トレンチ平面図



部位	層位	土色	土性	備考
A・B共通	I	7.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	下部で2.5Y3/1 黒褐色土を多量、II層土ブロックを含む。
	II	2.5GY5/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	下部でIII層土・酸化鉄を少量含む。グライ化顕著。
	IIIa	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	II層土を疎らに、酸化鉄を少量含む。
	IIIb	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	IIIa層に比べ、色調が明るい。
	IV	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	V層土ブロックを含み、酸化鉄を斑状に含む。下部が乱れる。
	V	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロックを全体に少量含む。酸化鉄を多量含む。
	VI	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。V層土ブロックを微量含む。

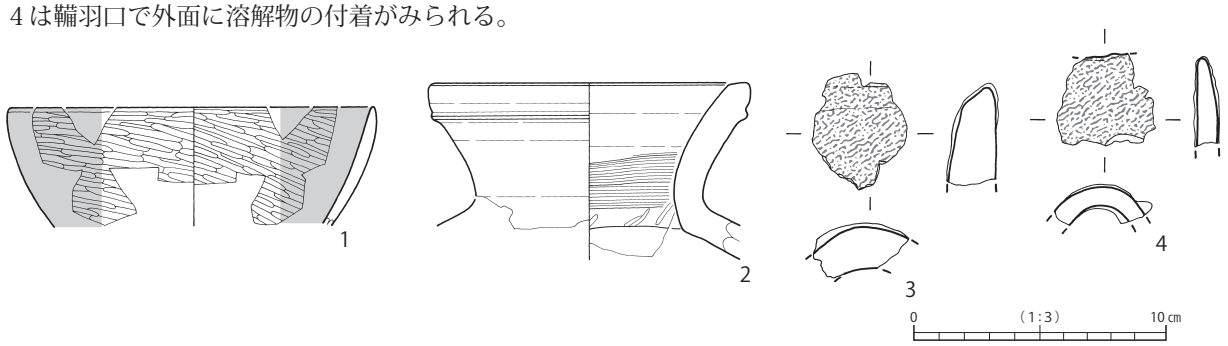
第 11 図　4トレンチ土層断面図

層厚は 20 ～ 29cm である。VI層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、V層土ブロックを微量に含む。

（2）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

遺物　土師器、須恵器、土製品が出土しており、そのうち、土師器 1 点、須恵器 1 点、土製品 2 点を図示した。1 は土師器の坏で内外面ともヘラミガキ後､黒色処理が施される。2 は須恵器の甕で､口縁部下に突帯が一条巡る。3・4 は鞴羽口で外面に溶解物の付着がみられる。



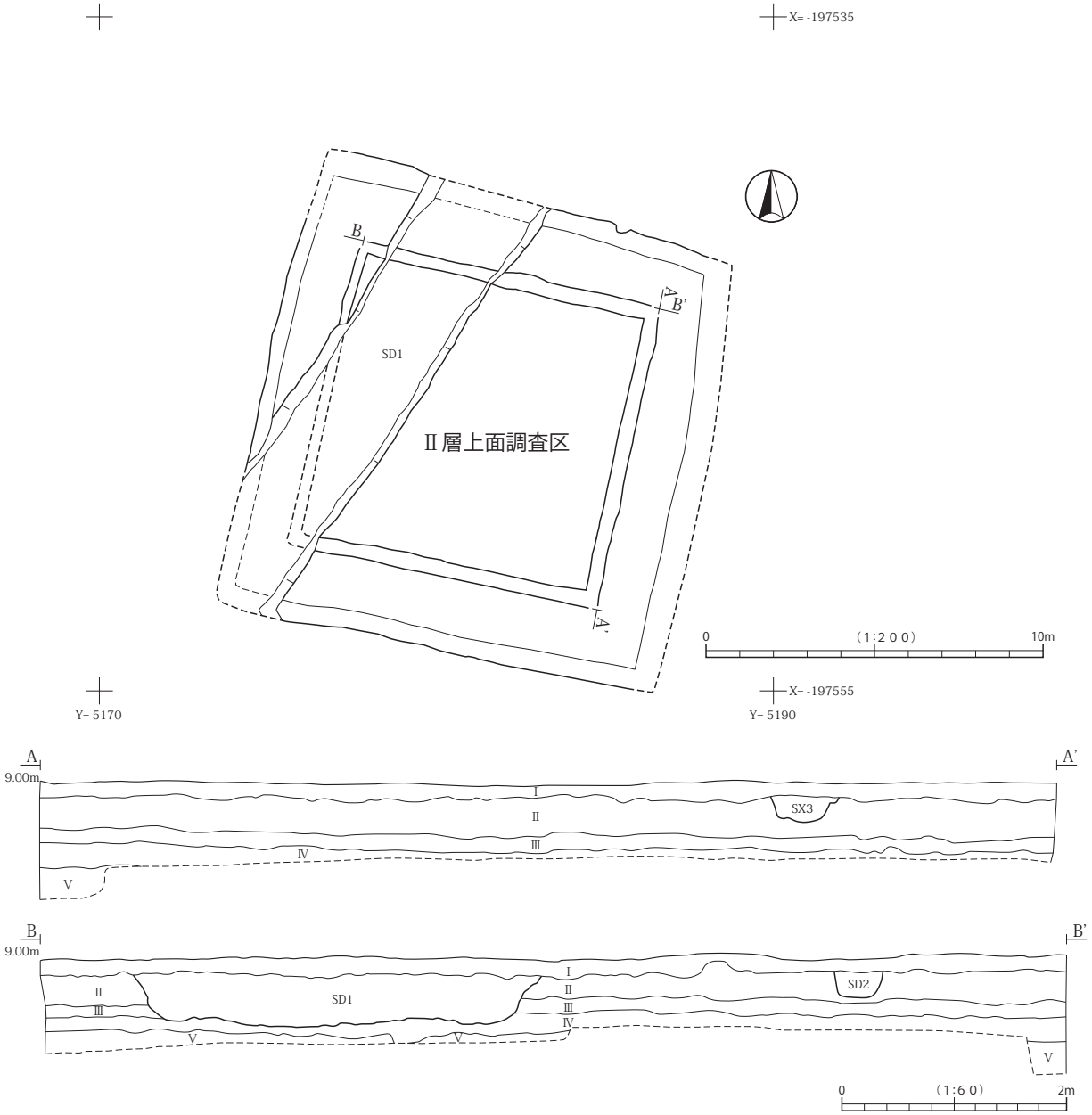
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	口径×底径×器高（cm）	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-14	側溝	－	土師器	坏	(14.4)× － × (4.7)	ヘラミガキ（黒色処理）	ヘラミガキ（黒色処理）		10
2	E-1	側溝	－	須恵器	甕	(2.8)× － × (7.0)	口縁～頸部ロクロ調整、胴部平行叩き目	口縁部ロクロ調整、頸部ヘラナデ、胴部青海波文		10

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ（cm）	特徴	備考	写真図版
3	P-1	東拡張	検出面	土製品	羽口	(4.5)× (3.7) × 1.9	外面：溶解物付着		10
4	P-2	東拡張	検出面	土製品	羽口	(3.6)× (3.9) × 0.9	外面：溶解物付着		10

第 12 図　4トレンチ出土遺物

５．５トレンチ（第４・13 図、写真図版４）

調査対象地区内の中央に、東西 13.5m、南北 13.5m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ層上面で遺構検出を行い、ＳＤ１を検出した。また、調査区北壁、東壁の壁面観察によりⅡ層上面から掘り込まれているＳＤ２、ＳＸ３を検出した。ＳＤ１・２は本調査においても検出されているため、詳細は次章で記載する。



部位	層位	土色	土性	備考
A・B 共通	Ⅰ	10Y2/1　黒色	シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅱ	2.5Y6/2　灰黄色	粘土質シルト	2.5Y3/2 黒褐色土ブロック・マンガン粒を全体に含む。上部で酸化鉄を多量に含み、グライ化顕著。
	Ⅲ	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。2.5Y6/2 灰黄色土ブロックが帯状に堆積。
	Ⅳ	10YR4/1　褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。上面でⅢ層土ブロックを少量含む。
	Ⅴ	10YR6/2　灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を全体に含む。
SX3	1	10Y3/2　オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を全体に少量含む。2.5Y4/4 オリーブ褐色土ブロック・10Y4/2 暗灰黄色土ブロックを多量含む。グライ化顕著。

第 13 図　５トレンチ平面・土層断面図

（1）基本層序

基本層はⅠ～Ⅴ層に大別された。Ⅰ層は黒色シルトを主体とし、層厚は７～18cm である。Ⅱ層は灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色土ブロック・マンガン粒を全体に含む。層厚は 17 ～ 37cm である。Ⅲ層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、灰黄色土ブロックが帯状に堆積する。層厚は６～ 16cm である。Ⅳ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、上面でⅢ層土ブロックを少量含む。層厚は 10 ～ 22cm である。Ⅴ層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、層厚は 27cm 以上である。

（2）遺構と遺物

ＳＸ３性格不明遺構　調査区東壁南側で検出し、Ⅱ層上面から掘り込まれている。規模は上幅 61cm、下幅 36cm、検出面からの深さは 23cm である。断面形態は逆台形を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

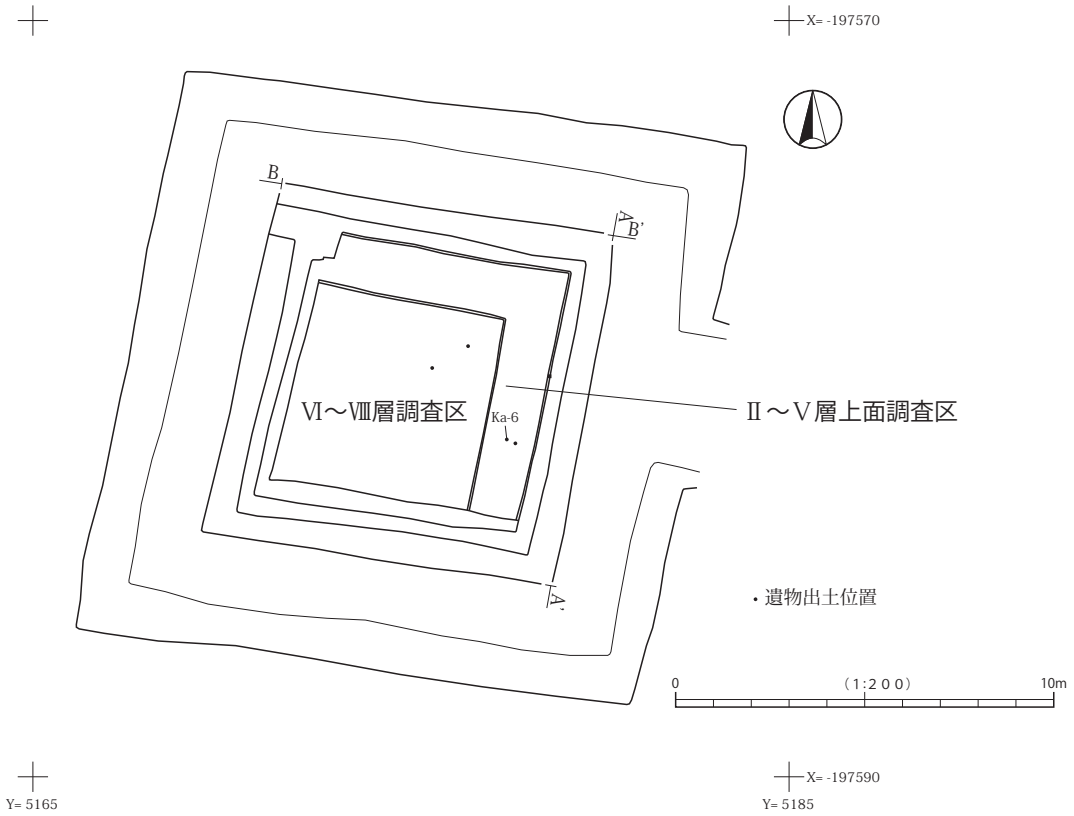
遺物　土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

６．６トレンチ（第４・14 ～ 16 図、写真図版４・10）

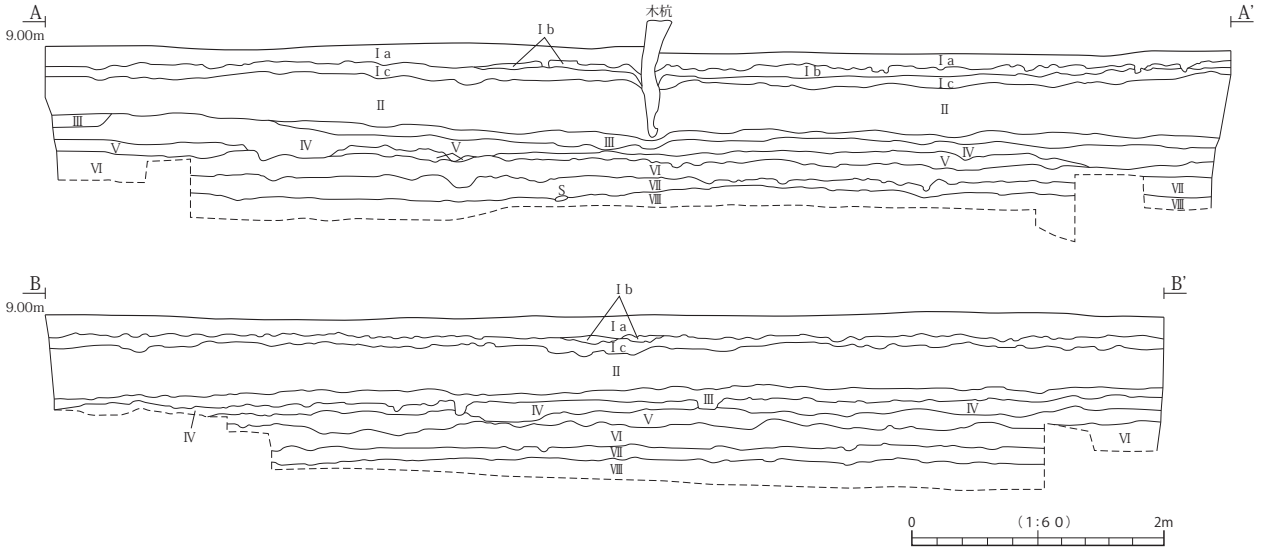
調査対象地区内の南に、東西 15m、南北 15m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅳ層で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

（1）基本層序

基本層はⅠ～Ⅷ層に大別された。Ⅰ層は３層に細分され、Ⅰａ層は黒色シルトを主体とし、層厚は７～ 23cm である。Ⅰｂ層は灰オリーブ色シルトを主体とし、Ⅰｃ層土ブロックを含む。部分的に堆積し、層厚は３～ 10cm である。Ⅰｃ層はオリーブ黒色シルトを主体とし、褐色土を含む。層厚は２～ 12cm である。Ⅱ層はオリーブ灰色



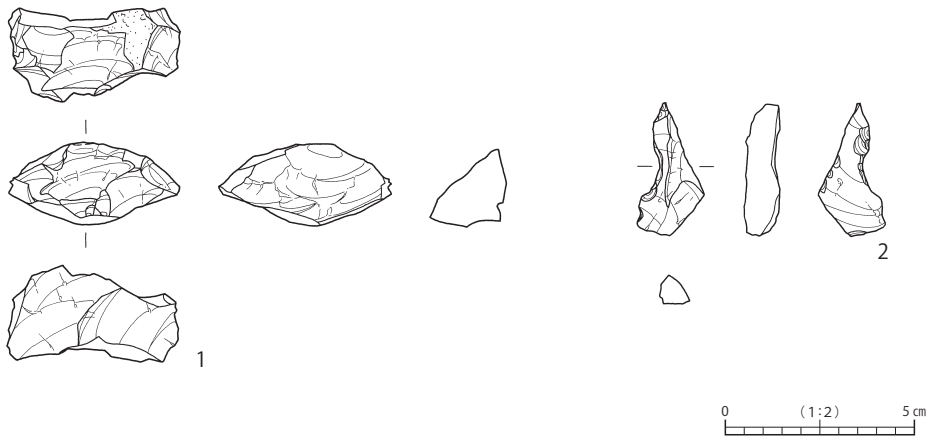
第 14 図　６トレンチ平面図



部位	層位	土色	土性	備考
A・B 共通	Ⅰa	2.5GY2/1 黒色	シルト	
	Ⅰb	7.5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅰc層土・酸化鉄を含む。
	Ⅰc	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	酸化鉄を含んだ7.5YR4/6 褐色土を全体に含む。
	Ⅱ	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	上部で酸化鉄を含んだ7.5YR5/8 明褐色土が帯状に堆積。下部で酸化鉄を疎らに2.5Y6/2 灰黄色粘土を斑状に含む。
	Ⅲ	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に疎らに含む。
	Ⅳ	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	マンガン斑・酸化鉄を全体に含む。
	Ⅴ	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	酸化鉄を全体に多量含む。Ⅵ層土ブロックを少量含む。
	Ⅵ	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。Ⅶ層土ブロックを少量含む。
	Ⅶ	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅷ	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に斑状に含む。

第 15 図　6 トレンチ土層断面図

粘土質シルトを主体とし、上部で明褐色土が帯状に、下部で灰黄色粘土が斑状に堆積する。層厚は 26 ～ 52cm である。Ⅲ層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は 3 ～ 16cm である。Ⅳ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は 1 ～ 31cm である。Ⅴ層は黄灰色シルトを主体とし、Ⅵ層土ブロックを少量含む。層厚は 1 ～ 18cm である。Ⅵ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、Ⅶ層土ブロックを少量含む。層厚は 4 ～ 20cm である。Ⅶ層は黄灰色粘土質シルトを主体とし、層厚は 3 ～ 21cm である。Ⅷ層は灰色粘土質シルトを主体とする。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Ｋａ-8	側溝	－	打製石器	剥片	2.2 × 4.6 × 2.6	19	流紋岩		10
2	Ｋａ-6	－	Ⅲ層	打製石器	剥片	3.5 × 1.8 × 1.0	3.2	流紋岩	二次加工有り	10

第 16 図　6 トレンチ出土遺物

（２）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

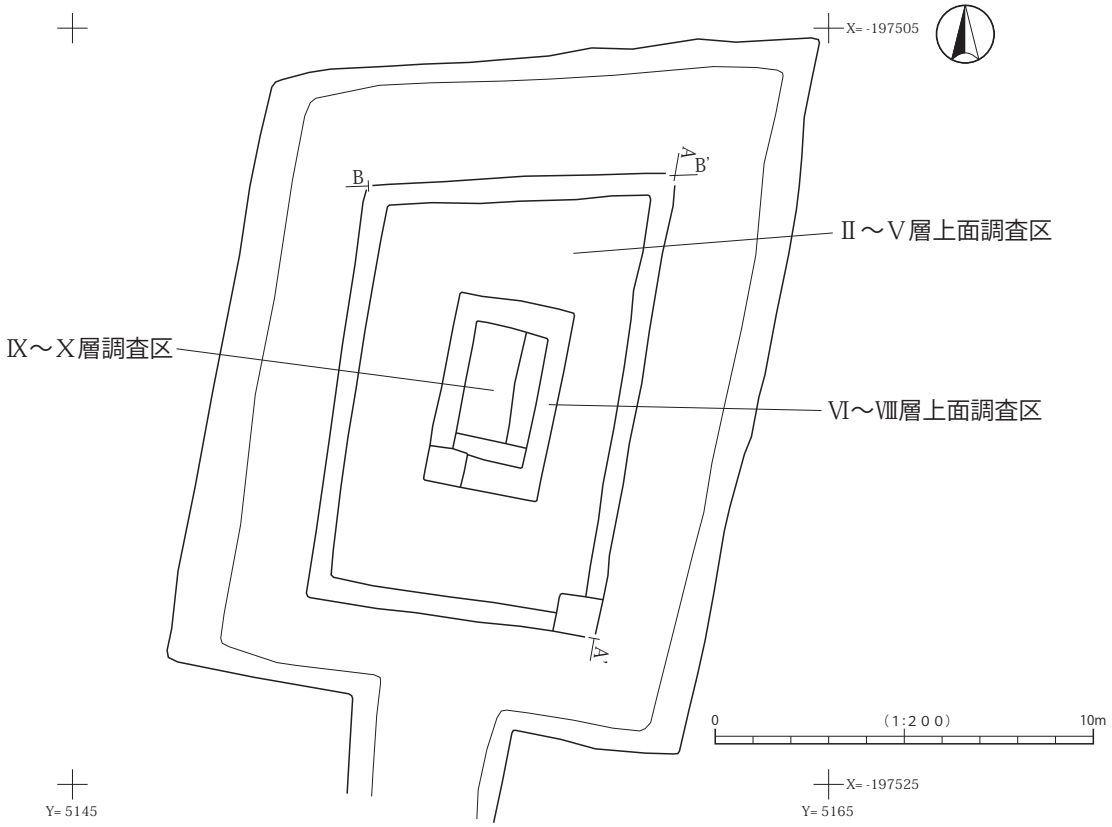
遺物　土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器２点を図示した。１・２とも流紋岩製の剥片で、２には若干の二次加工痕がみられる。

７．７トレンチ（第４・17・18 図、写真図版４・５）

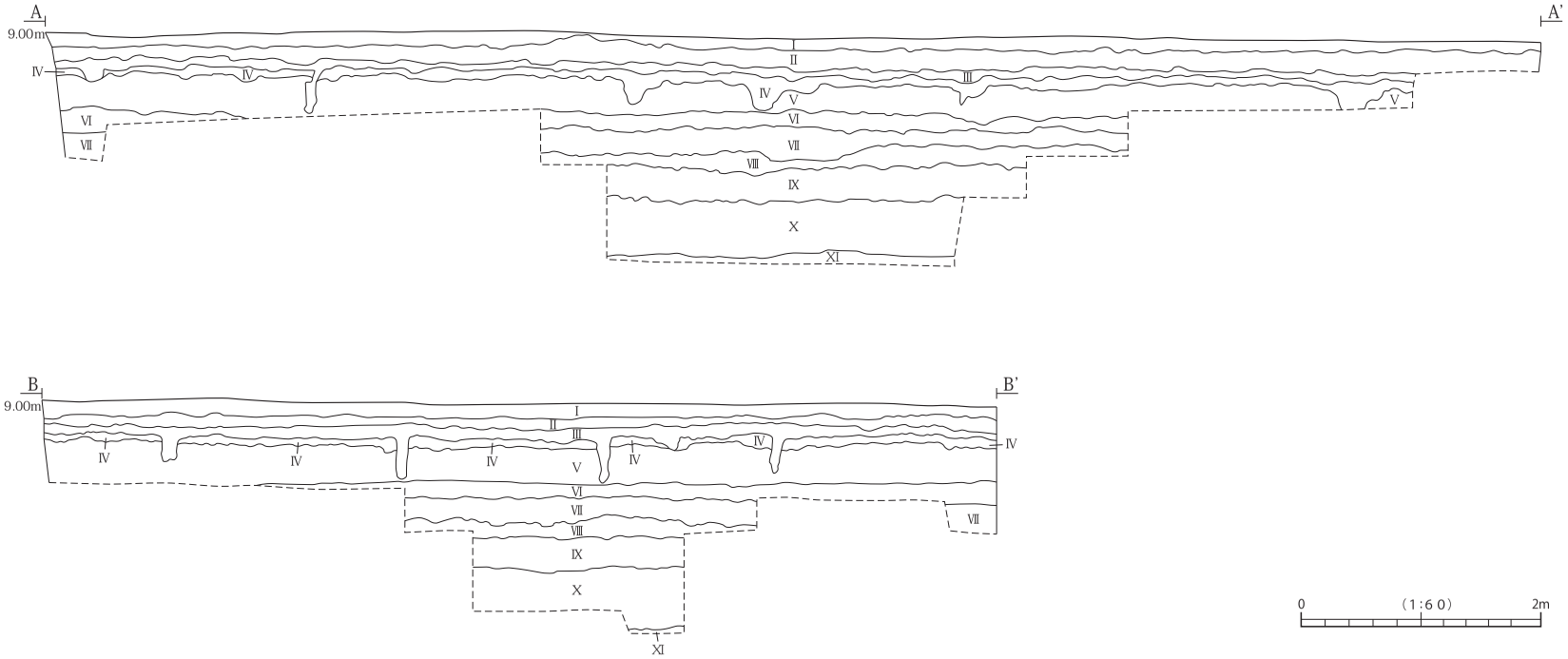
調査対象地区内の北西に、東西 14 ～ 14.5m、南北 15.5 ～ 19m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅴ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

（１）基本層序

基本層はⅠ～ⅩⅠ層に大別された。Ⅰ層は黒色シルトを主体とし、黒褐色土を多量に含む。層厚は２～ 15cm である。Ⅱ層は黒褐色シルトを主体とし、黄褐色土、オリーブ褐色土、オリーブ黒色土粒を含み、下面でⅢ層土が層状に堆積する。層厚は３～ 18cm である。Ⅲ層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、下面でⅣ層土を少量含む。層厚は４～ 13cm である。Ⅳ層は黄灰色砂質シルトを主体とし、Ⅲ層土ブロックを少量含む。層厚は３～ 13cm である。Ⅴ層は黄灰色砂質シルトを主体とし、上面でⅣ層土が層状に、下面で明褐色砂質土が帯状に堆積する。層厚は 15 ～ 38cm である。Ⅵ層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、層厚は６～ 15cm である。Ⅶ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、下部でⅧ層土ブロックを少量含む。層厚は５～ 28cm である。Ⅷ層は暗灰黄色砂質シルトを主体とし、Ⅶ層土ブロックを少量含む。層厚は５～ 20cm である。Ⅸ層は明褐色砂質シルトを主体とし、下面で橙色土が帯状に堆積する。層厚は 22 ～ 30cm である。Ⅹ層はオリーブ灰色砂質シルトを主体とし、層厚は 39 ～ 50cm である。ⅩⅠ層は暗オリーブ灰色砂を主体とする。



第 17 図　７トレンチ平面図



部位	層位	土色	土性	備考
A・B共通	Ⅰ	7.5Y2/1　黒色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色土を全体に多量含む。
	Ⅱ	2.5Y3/2　黒褐色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色土・2.5Y4/4 オリーブ褐色土・10Y3/2 オリーブ黒色土粒を全体に含む。下面でⅢ層土が層状に堆積。
	Ⅲ	2.5Y3/1　黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄・炭化物粒を微量含む。下面でⅣ層土を少量含む。
	Ⅳ	2.5Y4/1　黄灰色	砂質シルト	粘土質土と砂質土の混土。酸化鉄を全体に含む。Ⅲ層土ブロックを少量含む。
	Ⅴ	2.5Y6/2　灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。上面でⅣ層土が層状に堆積し、下面で7.5YR5/8 明褐色砂質土が帯状に堆積。
	Ⅵ	10YR3/1　黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。
	Ⅶ	10YR4/1　褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。下部でⅧ層土ブロックを少量含む。
	Ⅷ	2.5Y5/2　暗灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。Ⅶ層土ブロックを少量含む。
	Ⅸ	7.5YR5/8　明褐色	砂質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。下面で7.5YR6/8 橙色土が帯状に堆積。
	Ⅹ	5GY5/1　オリーブ灰色	砂質シルト	上面で酸化鉄を少量含む。マンガン粒を含む。
	ⅩⅠ	2.5GY4/1　暗オリーブ灰色	砂	マンガン粒を少量含む。しまりが極めて強い。

第18図　7トレンチ土層断面図

（2）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

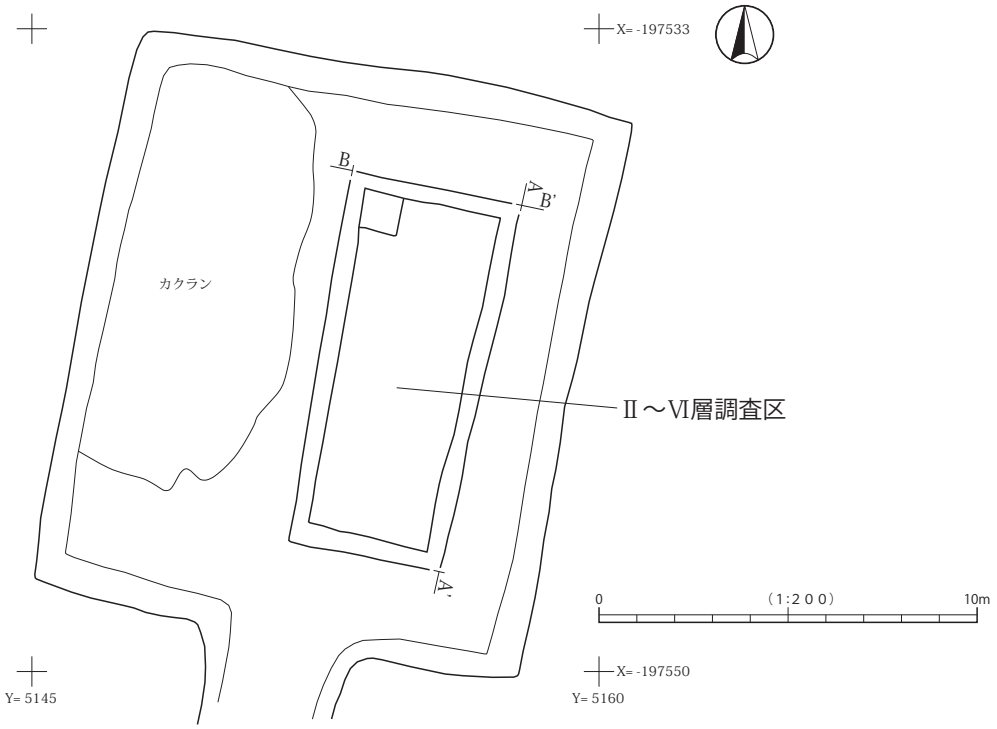
遺物　土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

8．8トレンチ（第4・19・20図、写真図版5・10）

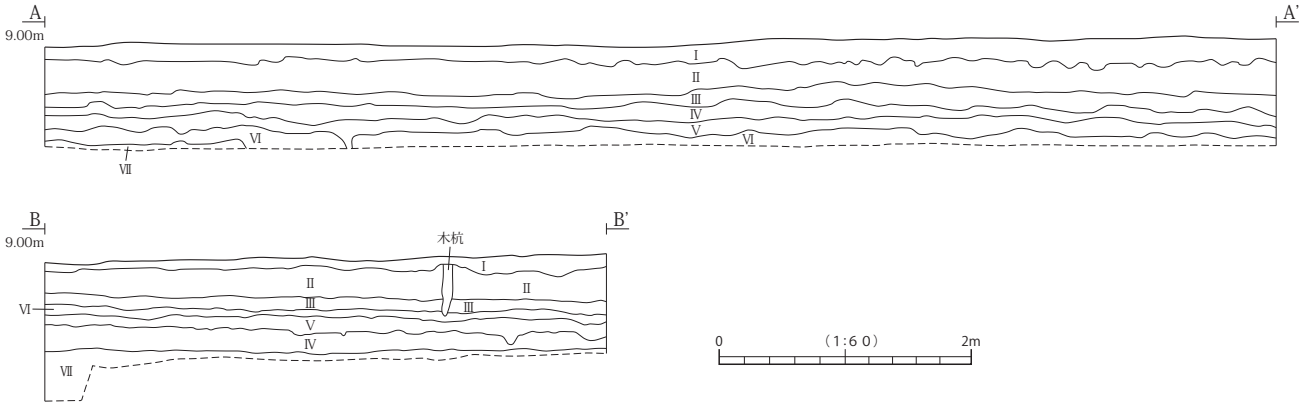
調査対象地区内の西に、東西13m、南北15～15.5mのトレンチを設定したが、西側は現代の撹乱により、大きく削平されていたため、調査区中央から東側の範囲で調査を行った。Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。

（1）基本層序

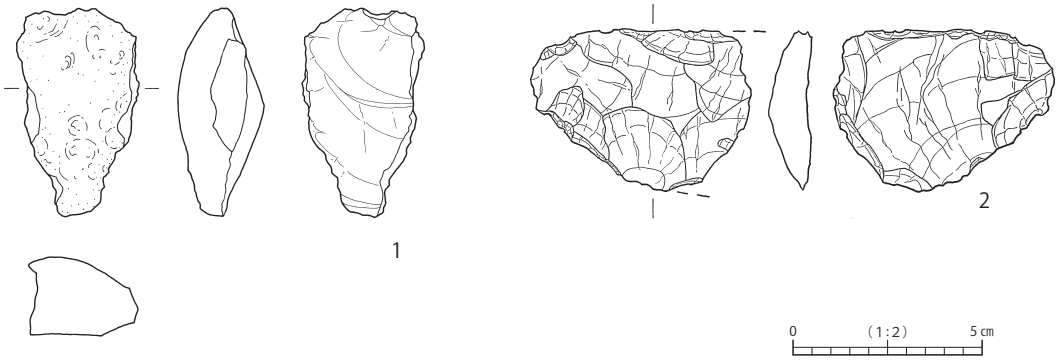
基本層はⅠ～Ⅶ層に大別された。Ⅰ層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、東側上面でオリーブ灰色土が層状に堆積し、下面で明褐色土ブロックを少量含む。層厚は3～25cmである。Ⅱ層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を斑状に含む。層厚は14～31cmである。Ⅲ層は灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、黒褐色粘土を少量含む。層厚は6～18cmである。Ⅳ層は黒色粘土質シルトを主体とし、層厚は2～14cmである。Ⅴ層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、下面でⅥ層土ブロックを含む。層厚は5～17cmである。Ⅵ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、層厚は6～22cmである。Ⅶ層は褐灰色粘土質シルトを主体とする。



第19図　8トレンチ平面図



部位	層位	土色	土性	備考
A・B共通	Ⅰ	5GY2/1　オリーブ黒色	粘土質シルト	東側上面で2.5GY5/1 オリーブ灰色土が層状に堆積し、下部で7.5YR5/8 明褐色土ブロックを少量含む。グライ化顕著。
	Ⅱ	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。炭化物粒を少量含む。10YR3/1 黒褐色粘土を斑状に含む。
	Ⅲ	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土・酸化鉄を少量含む。
	Ⅳ	10YR2/1　黒色	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む。
	Ⅴ	10YR4/1　褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。下面でⅥ層土ブロックを含む。下層が乱れる。
	Ⅵ	2.5Y6/2　灰黄色	砂質シルト	酸化鉄を全体に含む。Ⅴ層に比べ砂質が強い。
	Ⅶ	10YR4/1　褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Ｋａ-10	側溝	－	打製石器	剥片	5.5 × 3.2 × 2.3	35	流紋岩	自然面残す	10
2	Ｋａ-9	側溝	－	打製石器	石庖丁	(5.9)× 4.2 × 1.0	29	粘板岩	未製品	10

第 20 図　８トレンチ土層断面図・出土遺物

（２）遺構と遺物

遺構　検出されなかった。

遺物　土師器、須恵器、打製石器が出土しており、そのうち、打製石器２点を図示した。１は流紋岩製の剥片である。２は粘板岩製の石庖丁で、研磨面や擦痕はみられないことから、整形時に折損した未製品と考えられる。

９．９トレンチ（第４・21 ～ 23 図、写真図版５・６・10・11）

調査対象地区内の南西に、東西 13 ～ 14m、南北 20m のトレンチを設定し調査を行った。Ⅱ～Ⅵ層上面で遺構検出を行い、Ⅲ層上面でＳＫ３、Ⅳ層上面で炭化物集中範囲、調査区北壁でＳＸ４を検出した。遺物は調査区南半のＶｂ層で縄文時代晩期後葉の土器が残りの良い状態で３個体集中して出土した。そのため、遺物の広がりと遺構の有無を確認するため、調査区南側を約６ｍ拡張し、調査を行った結果、遺構は検出されなかったが、Ⅲ層で弥生土器が１点出土した。その他、調査区東壁にて土壌サンプルを採取し、花粉分析（第Ⅶ章）を行った。

（１）基本層序

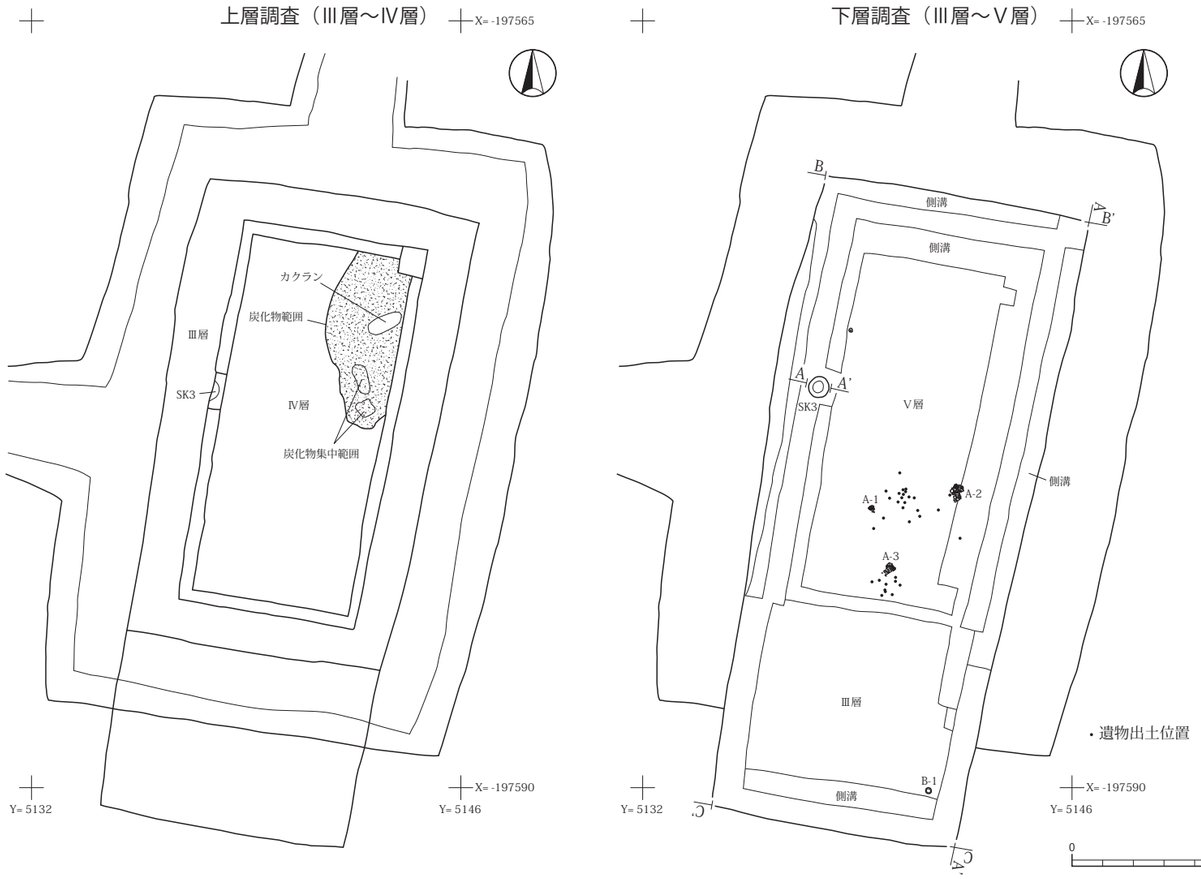
基本層はⅠ～Ⅶ層に大別された。調査区南壁の土層観察ではⅠｇ層以下が東から西に傾斜し堆積することから、トレンチ南西側に埋没河川が存在する可能性がある。Ⅰ層は７層に細分され、Ⅰａ層は黒色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は９～ 21cm である。Ⅰｂ層は黒色シルト～オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。層厚は７～ 47cm である。Ⅰｃ層はオリーブ黒色シルトを主体とし、オリーブ灰色土ブロック、灰オリーブ色土ブロックを多量に含む。調査区北側にのみ堆積し、層厚は２～ 21cm である。Ⅰｄ層は黒色粘土質シルトを主体とし、層厚は２～９cm である。Ⅰｅ層はオリーブ灰色粘土質シルトを主体とし、黒色土が薄く層状に堆積する。調査区南側にのみ堆積し、層厚は 10 ～ 23cm である。Ⅰｆ層は灰色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は３～ 25cm である。Ⅰｇ層はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は４～ 11cm である。Ⅱ層は４層に細分される。Ⅱａ・Ⅱｃ層は暗灰黄色～灰色粘土質シルトを主体とする。層厚はⅡａ層が 11 ～ 33cm、Ⅱｃ層が３～ 28cm である。Ⅱｂ層は灰色粘土質シルトを主体とする。調査区南側にのみ堆積し、層厚は８～ 15cm である。Ⅱｄ層は灰黄色～灰色粘土質シルトを主体とする。層厚はⅡｄ層が６～ 22cm である。Ⅲ層は灰黄褐色～灰色粘土質シルトを主体とし、炭化物粒を微量含む。層厚は６～ 17cm である。Ⅳ層は褐灰色～灰色粘土質シルトを主体とし、炭化物粒を微量含み、Ⅲ層に比べ、色調がやや明るい。層厚は 11 ～ 31cm である。Ⅴ層は２層に細分され、Ⅴａ層は灰黄色砂質シルトを主体とし、下部で明褐色酸化鉄が層状に堆積する。調査区北側にのみ堆積し、層厚は５～ 28cm である。Ⅴｂ層は灰色砂質シルトまたは粘土質シルトを主体とし、酸化鉄を含み、南側では炭化物粒も微量含む。調査区中央から南側にかけて堆積し、層厚は４～ 24cm である。Ⅵ層は暗灰色粘土質シルトを主体とし、灰色砂質土ブロックを少量含む。層厚は２～ 24cm である。Ⅶ層は灰色粘土質シルトを主体とし、Ⅵ層土ブロックを少量含む。

（２）遺構と遺物

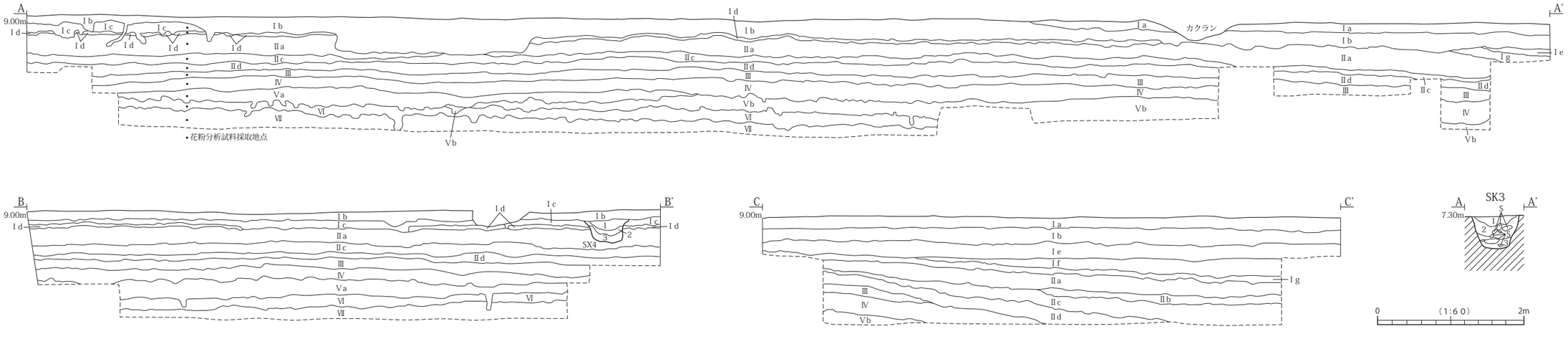
ＳＫ３土坑　調査区中央西側、Ⅲ層上面で検出した。規模は直径 66cm、検出面からの深さは 42cm である。平面形は円形で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は３層に分層され、１層は灰黄褐色粘土と黒褐色土のブロック層、２層は灰色粘土と黒褐色土のブロック層で何れも 10 ～ 30cm 大の礫を多量に含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。３層はオリーブ黒色粘土を主体とし、扁平な円礫が埋設されている。遺物は土師器、弥生土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

ＳＸ４性格不明遺構　調査区北壁で遺構断面のみ検出した。Ⅰｃ層上面から掘り込まれている。規模は上幅 61cm、下幅 36cm、検出面からの深さは 32cm である。断面形態は逆台形を呈する。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

遺物　須恵器、弥生土器、縄文土器、自然遺物が出土しており、そのうち、須恵器１点、弥生土器１点、縄文土器３点を図示した。１は須恵器の甕で頸部に波状文が施される。２は弥生時代中期の台付浅鉢の台部で、横走沈線を２条施文し、その区画内に、長楕円形状文を２段施し、無節Ｌ縄文を充填する。３～５は縄文時代晩期後葉の土器である。３は台付浅鉢で LR 縄文を地文とし、口縁部と台部には工字文が施される。４・５は深鉢で４は LR・RL 縄文を地文とし、口縁部には平行沈線が施される。口唇部には４単位のＡ突起およびＢ突起がそれぞれ施され、

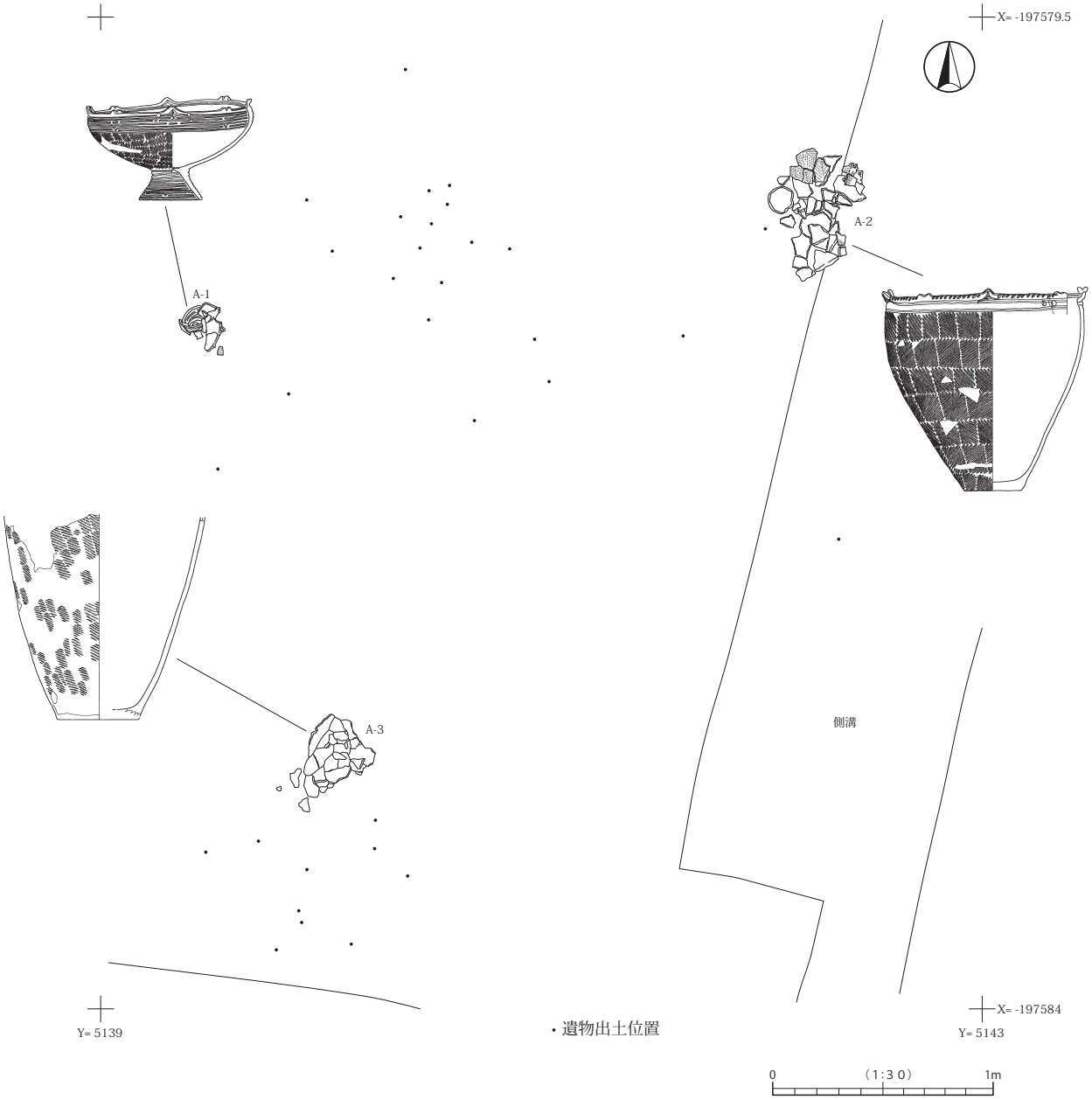


部位	層位	土色		土性	備考
A・B 共通	Ⅰa	10Y2/1	黒色	粘土質シルト	
	Ⅰb	5Y2/1	黒色	シルト	酸化鉄を微量含む。下部で2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土を多量含む。
	Ⅰc	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト	酸化鉄を全体に含む。10Y6/2 オリーブ灰色土ブロック・5Y5/3 灰オリーブ色土ブロックを多量含む。
	Ⅰd	2.5Y2/1	黒色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅱa	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に多量含む。上層でグライ化顕著。
	Ⅱc	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅱd	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅲ	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。2.5Y6/3 にぶい黄色土ブロックを少量含む。
	Ⅳ	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。2.5Y6/2 灰黄色土ブロックを少量含む。
	Ⅴa	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	下層で7.5YR5/6 明褐色酸化鉄が層状に堆積。
	Ⅴb	5Y6/1	灰色	砂質シルト	酸化鉄を含む。
	Ⅵ	N3/0	暗灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。7.5Y5/1 灰色砂質土ブロックを少量含む。
	Ⅶ	10Y4/1	灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に少量含む。Ⅵ層土ブロックを少量含む。
C - C'	Ⅰa	10Y2/1	黒色	粘土質シルト	
	Ⅰb	10Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色土ブロックを全体に含む。
	Ⅰe	10Y4/2	オリーブ灰色	粘土質シルト	酸化鉄の影響を受けた10YR4/6 褐色土を全体に含む。2.5Y2/1 黒色土が薄く層状に堆積。下面で2.5Y2/1 黒色土が薄く層状に何層も重なり堆積。
	Ⅰf	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	
	Ⅰg	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	南西方向に落ち込んでいる。
	Ⅱa	7.5Y6/1	灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	Ⅱb	5Y5/1	灰色	粘土質シルト	酸化鉄を微量含む。
	Ⅱc	10Y6/1	灰色	粘土質シルト	酸化鉄を微量含む。
	Ⅱd	10Y5/1	灰色	粘土質シルト	酸化鉄を微量含む。
	Ⅲ	10Y5/1	灰色	粘土質シルト	東側で酸化鉄を微量含む。炭化物粒を微量含む。
	Ⅳ	10Y4/1	灰色	粘土質シルト	東側で酸化鉄を微量含む。炭化物粒を微量含む。
	Ⅴb	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	東側で酸化鉄を微量含む。炭化物粒を微量含む。
SK3	1	10YR5/2 10YR2/2	灰黄褐色・ 黒褐色土のブロック層	粘土	埋戻し土。10～30cm大の礫を多量に含む。
	2	7.5Y4/1	灰色・10YR2/2 黒褐色土のブロック層	粘土	埋戻し土。10～30cm大の礫を多量に含む。
	3	10Y3/1	オリーブ黒色	粘土	グライ化顕著。
SX4	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	7.5Y5/2 灰オリーブ色土・7.5Y2/1 黒色土を全体に含む。
	2	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	7.5Y5/2 灰オリーブ色土を少量含む。
	3	7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	7.5Y5/2 灰オリーブ色土・7.5Y2/2 オリーブ黒色土がレンズ状に堆積。

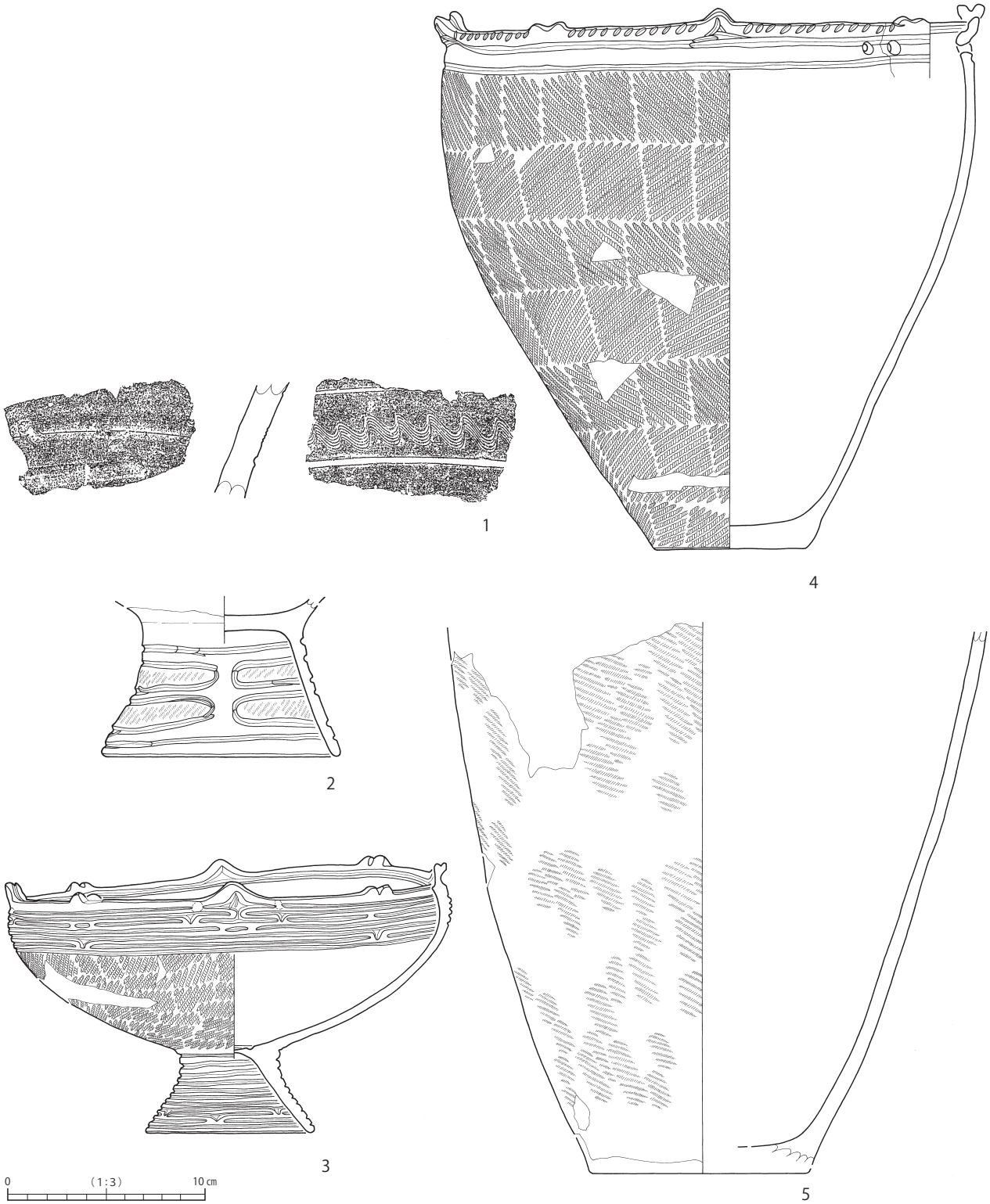


第 21 図　9 トレンチ平面・土層断面図

突起間には刻目文が施文される。また、口縁部には補修孔が穿孔される。５は無節Ｌ縄文を地文とし、内外面で炭化物の付着がみとめられる。



第 22 図　９トレンチ遺物出土状態図



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	口径×底径×器高（cm）	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真図版
1	E-21	側溝	—	須恵器	甕	—×—×—	頸部、ロクロ調整、沈線２条、櫛描き波状文	ヘラナデ		10
2	B-1	—	Ⅲ層	弥生土器	台付鉢	—×12.1×(8.1)	台部、沈線のよる長楕円形状文（３単位）、Ｌ無節縄文充填	ミガキ		10
3	A-1	—	Ｖｂ層	縄文土器	台付浅鉢	22.3×8.5×14.0	口縁・台部工字状文、胴部ＬＲ縄文、口端４単位２種の突起	口縁・底面沈線１条、ミガキ		10
4	A-2	—	Ｖｂ層	縄文土器	深鉢	27.8×7.8×27.1	口縁部平行沈線、胴部ＬＲ・ＲＬ縄文交互施文、口端４単位２種の突起・刻み目	口縁沈線１条、ミガキ	補修孔有り	10
5	A-3	—	Ｖｂ層	縄文土器	深鉢	—×(11.2)×(27.5)	Ｌ無節縄文、上半炭化物付着	ミガキ、下半炭化物付着		11

第23図　9トレンチ出土遺物

第Ⅵ章　本調査区の検出遺構と出土遺物

確認調査において、Ⅰ期官衙に関連する溝跡（ＳＤ１）をⅡ層上面で検出したため、調査区を拡張し、その規模や性格の確認を目的として本調査を行った。その結果、溝跡６条、井戸跡２基、性格不明遺構２基を検出した。これらは、検出面や遺構重複関係などからⅠ期官衙以降の古代～中世に帰属するものと考えられる。

１．溝跡

ＳＤ１溝跡（第 24 ～ 32 図、写真図版６・７・11 ～ 16）

１～ 17･20･23 ～ 25･28 ～ 31･37･38 グリッドに位置し、北側と東側は調査区外に延びる。ＳＤ２、ＳＥ１・２、ＳＸ１・２に切られる。検出した範囲での規模は長さ南北 62.5m、東西 43m、上幅 240 ～ 430cm、下幅 196 ～ 370cm、検出面からの深さは 14 ～ 59cm である。平面形は「Ｌ」字形で、20 グリッドに屈曲部をもち、直角に屈曲する。方向は南北方向でＮ‐35°‐Ｅ、東西方向はＮ‐57°‐Ｗで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面は屈曲部より北側は平坦で、東側は西から東へ緩やかに傾斜する。堆積土は５層に大別され、２層が水成堆積の様相を示す。遺物は土師器、須恵器、土製品、打製石器、礫石器、瓦、金属製品が出土しており、そのうち、土師器 21 点、須恵器 18 点、打製石器２点、礫石器 17 点、瓦１点、土製品１点、金属製品３点を図示した。

ＳＤ２溝跡（第 24・25・33 図、写真図版７・16）

12・14・16・18 ～ 21・46 グリッドに位置し、北東側と南西側は調査区外に延びる。規模・形態・方向が確認調査区の２トレンチで検出した溝跡と類似することから同一遺構と考えられる。ＳＤ１・４・６、ＳＸ１・２を切る。検出した範囲での規模は長さが南北で 23.5m、東西で 25.4m、上幅 16 ～ 48cm、下幅６～ 35cm、検出面からの深さは４～ 26cm である。平面形はクランク状で、12・21・46 グリッドに屈曲部をもつ。方向は南北方向がＮ‐19°‐Ｅ、東西方向はＮ‐80°‐Ｗで直線状に走行する。なお、確認調査区の２トレンチ検出部までの長さは 35.7 m、方向はＮ‐69°‐Ｗである。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は土師器、須恵器、礫石器、金属製品が出土しており、そのうち、礫石器１点を図示した。１は凝灰岩製の磨石で、表裏両面に磨痕、表面と側縁に線状痕がみとめられる。

ＳＤ３溝跡（第 24・25 図、写真図版７）

23 ～ 25・30・31・37・38 グリッドに位置し、南東側は調査区外へ延びる。ＳＤ１・５を切る。検出した範囲での規模は長さ 38m、上幅 30 ～ 78cm、下幅８～ 54cm、検出面からの深さは２～ 16cm である。方向はＮ‐58 ～ 74°‐Ｗで西側が若干湾曲するが、ほぼ直線状に走行する。断面形は「Ｕ」字形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層され、黒色～オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は土師器、須恵器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

ＳＤ４溝跡（第 24・25 図、写真図版８）

22 グリッドに位置し、ＳＤ２、ＳＥ１に切られる。規模は長さ 3.2m、上幅 35 ～ 55cm、下幅 20 ～ 40cm、検出面からの深さは４～ 16cm である。方向はＮ‐19°‐Ｅで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土しなかった。

ＳＤ５溝跡（第 24・25・34 図、写真図版８・16）

29・30・37・38 グリッドに位置し、東側と西側は調査区外へ延びる。ＳＤ３に切られ、ＳＤ１を切る。検出した範囲での規模は長さ 19.1m、上幅 32 ～ 110cm、下幅 14 ～ 63cm、検出面からの深さは５～ 40cm である。平面形は「Ｌ」字形で、29 グリッドに屈曲部をもつ。方向は屈曲部より西側でＮ‐64°‐Ｅ、東側はＮ‐57 ～ 69°‐Ｗで直線状に走行する。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は４層に分層され、３・４層は東側にのみ堆積する。遺物は土師器、須恵器、石製品が出土しており、そのうち、須恵器２点を図示した。

ＳＤ６溝跡（第 24・25・35 図、写真図版８・９・16）

22・23・27・28・44・46 グリッドに位置し、西側と東側は調査区外へ延びる。ＳＤ２に切られる。検出した範囲での規模は長さ 31.5m、上幅 25 ～ 103cm、下幅 12 ～ 77cm、検出面からの深さは２～ 28cm である。方向はＮ‐60 ～ 73°‐Ｗでほぼ直線状に走行する。断面形は「Ｕ」字形や壁面にテラス状の段をもつ箇所､壁面がオーバーハングする箇所があり一定ではなく、底面も凹凸の顕著な箇所が多い。堆積土は５層に大別される。底面ではピット１基が検出され、規模は長さ 40cm、検出面からの深さは 20cm である。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は「Ｕ」字形を呈する。堆積土は３層に分層され、１層は柱痕跡で、径約 15cm の柱材が用いられたと推定される。遺物は土師器、土製品などが出土しており、そのうち、土師器１点、土製品１点を図示した。

２．井戸跡

ＳＥ１井戸跡（第 24・36 図、写真図版９）

22 グリッドに位置し、ＳＤ４を切る。規模は長軸 126cm、短軸 106cm、検出面からの深さは 124cm である。平面形は不整楕円形で、断面形は逆台形を呈し、底面から急に立ち上がるが、西側は壁面中位から緩やかに外傾する。堆積土は５層に分層され、１・２層は黒色～オリーブ黒色シルト、３～５層は黒色粘土質シルトを主体とする。井戸枠や石組みなどの痕跡が確認されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。遺物は出土しなかった。

ＳＥ２井戸跡（第 24・36 図、写真図版９）

19・20 グリッドに位置し、ＳＸ１・２に切られ、ＳＤ１を切る。規模は長軸 203cm、短軸 155cm、検出面からの深さは 93cm である。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈し、底面からの立ち上がりはＳＥ１に比べ、緩やかである。堆積土は６層に分層され、１・２層はオリーブ黒色シルト、３～６層は黒色～黒褐色粘土を主体とする。井戸枠や石組みなどの痕跡が確認されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。遺物は土師器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

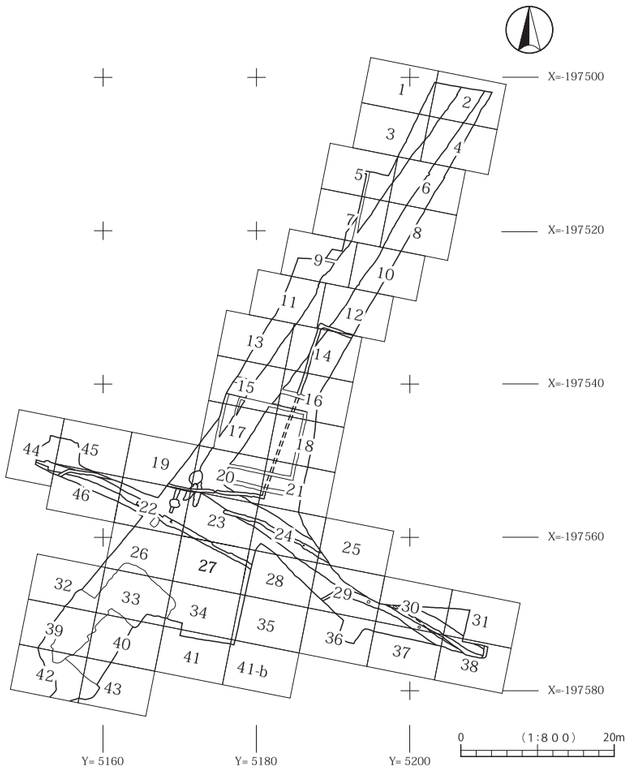
３．性格不明遺構

ＳＸ１性格不明遺構（第 24・37 図、写真図版９）

19・20・22・23 グリッドに位置し、ＳＤ２に切られ、ＳＤ１、ＳＥ２、ＳＸ２を切る。規模は長軸 258cm、短軸 88cm、検出面からの深さは 15cm である。平面形は不整楕円形で、断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が顕著である。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とする。遺物は土師器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

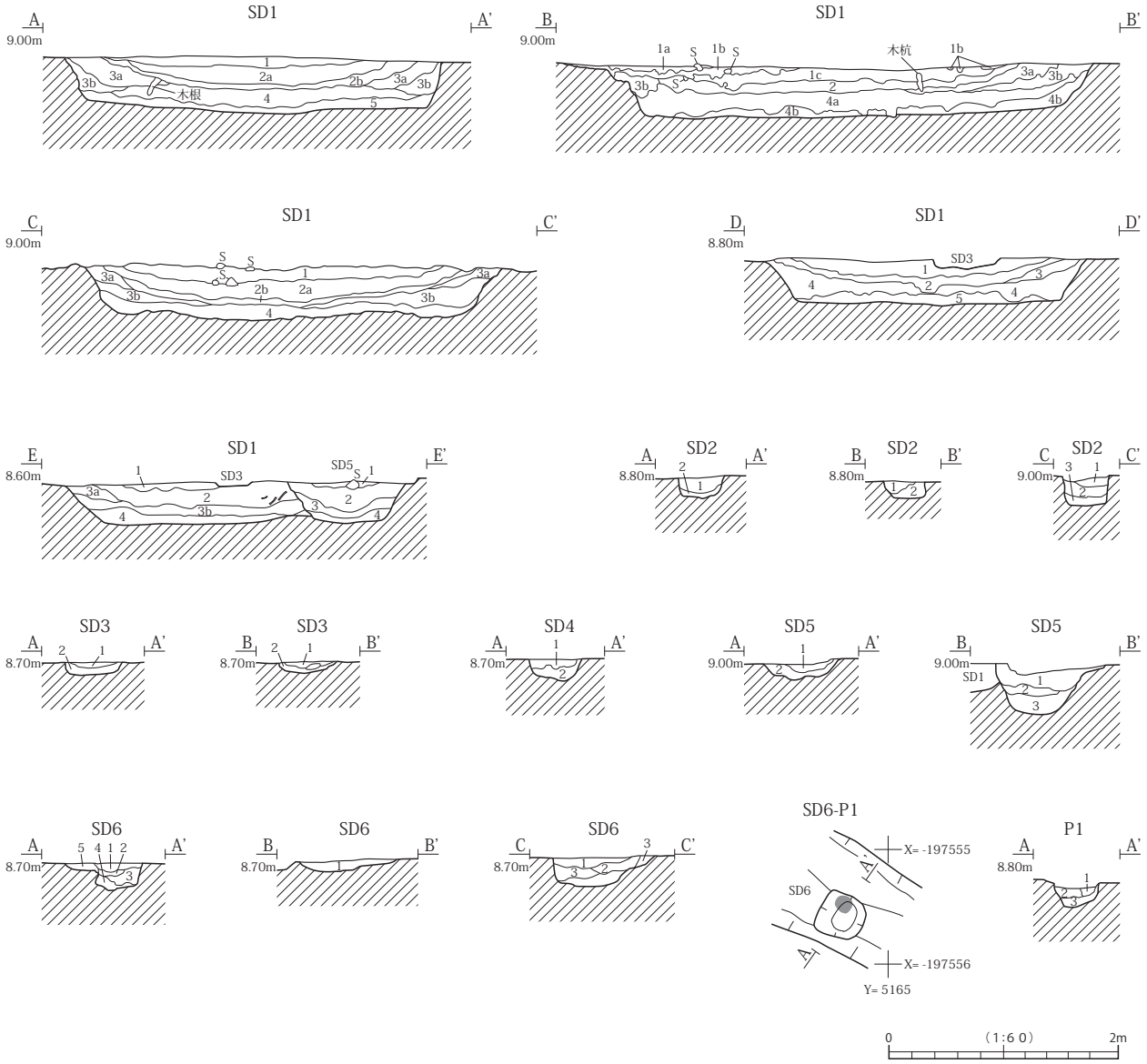
ＳＸ２性格不明遺構（第 24・37 図、写真図版９）

20・23 グリッドに位置し、ＳＤ２、ＳＸ１に切られる。規模は長軸 328cm、短軸 81cm、検出面からの深さは 13cm である。平面形は不整楕円形で、断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が顕著である。堆積土は単層でオリーブ黒色シルトを主体とする。遺物は土師器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



区配図

第 24 図　本調査区遺構配置図

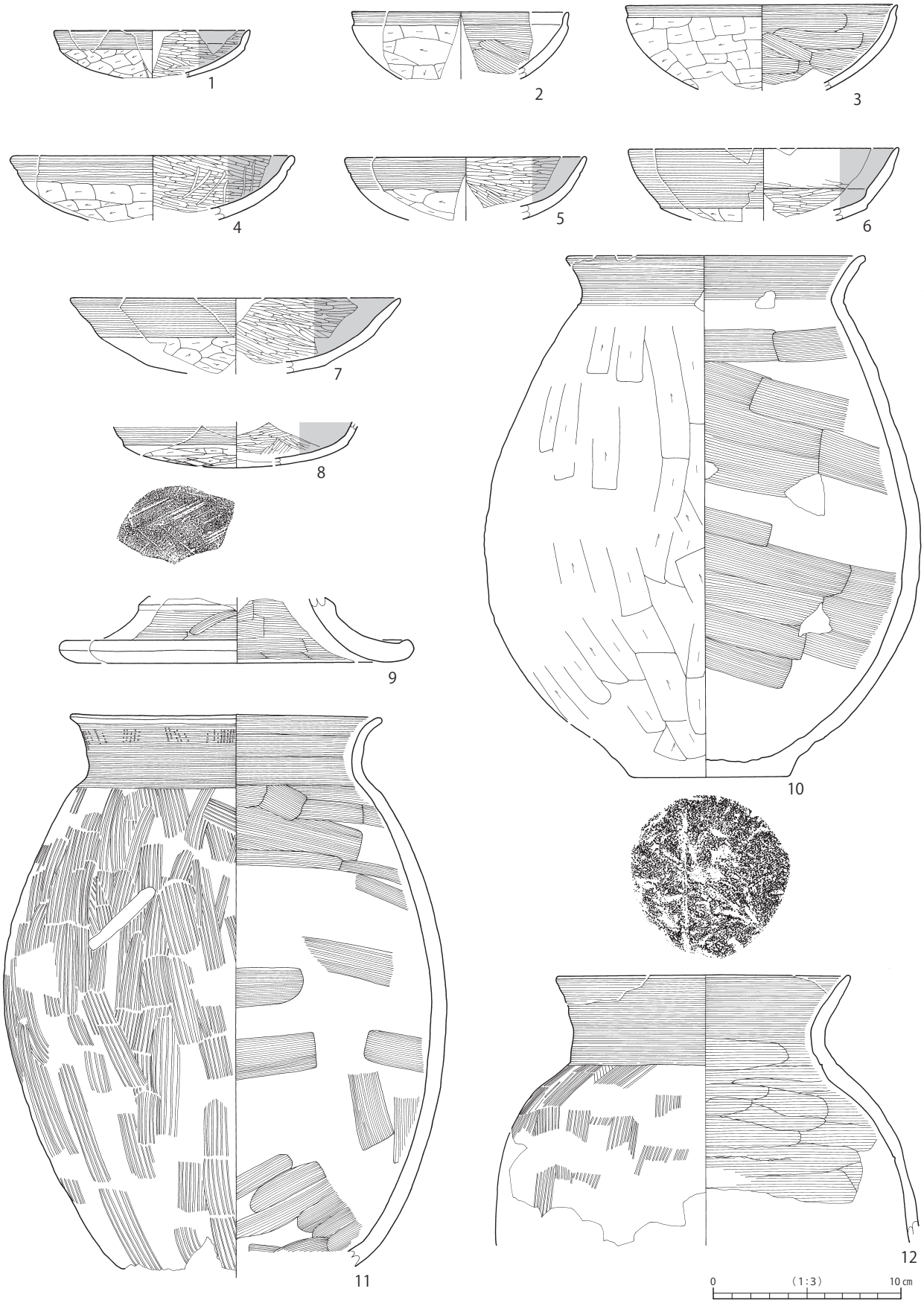


遺構名	グリッド	重複関係	方向	規模(cm)				備考
				長さ	上幅	下幅	深さ	
SD1	1～17・20・23～25・28～31・37・38	SD2、SE1・2、SX1・2に切られる。	N－35°－E N－57°－W	(10550)	240～430	196～370	14～59	
SD2	12・14・16・18～21・46	SD1・4・6、SX1・2を切る。	N－19°－E N－80°－W	(4890)	16～48	6～35	4～26	
SD3	23～25・30・31・37・38	SD1・5を切る。	N－58～74°－W	(3800)	30～78	8～54	2～16	
SD4	22	SD2、SE1に切られる。	N－19°－E	320	35～55	20～40	4～16	
SD5	29・30・37・38	SD3に切られ、SD1を切る。	N－64°－E N－57～69°－W	(1910)	32～110	14～63	5～40	
SD6	22・23・27・28・44・46	SD2に切られる。	N－60～73°－W	(3150)	25～103	12～77	2～28	底面でピット1基検出。

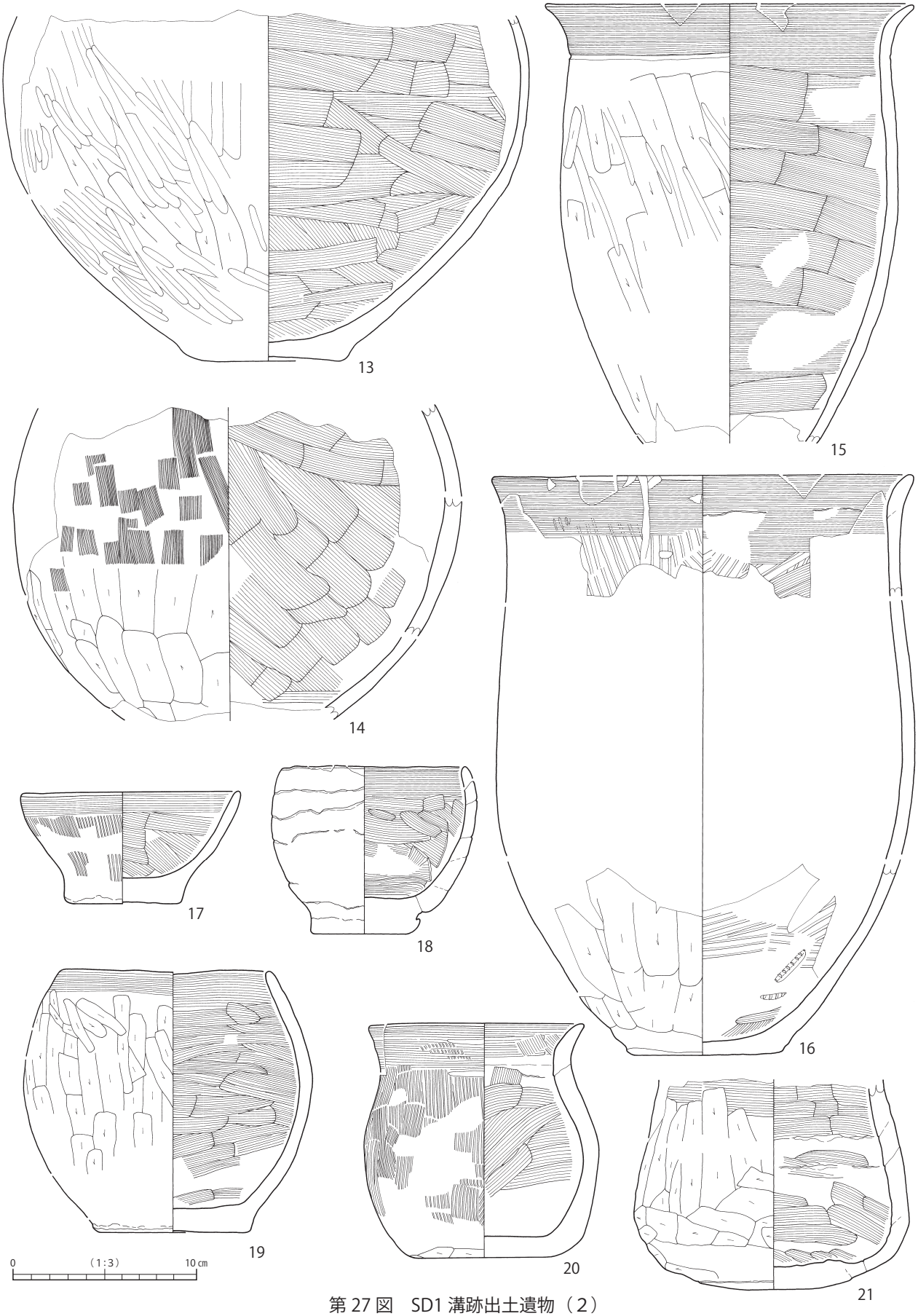
第25図　SD 1～6溝跡・SD 6ピット1

SD１～６溝跡・SD６ピット１土層註記

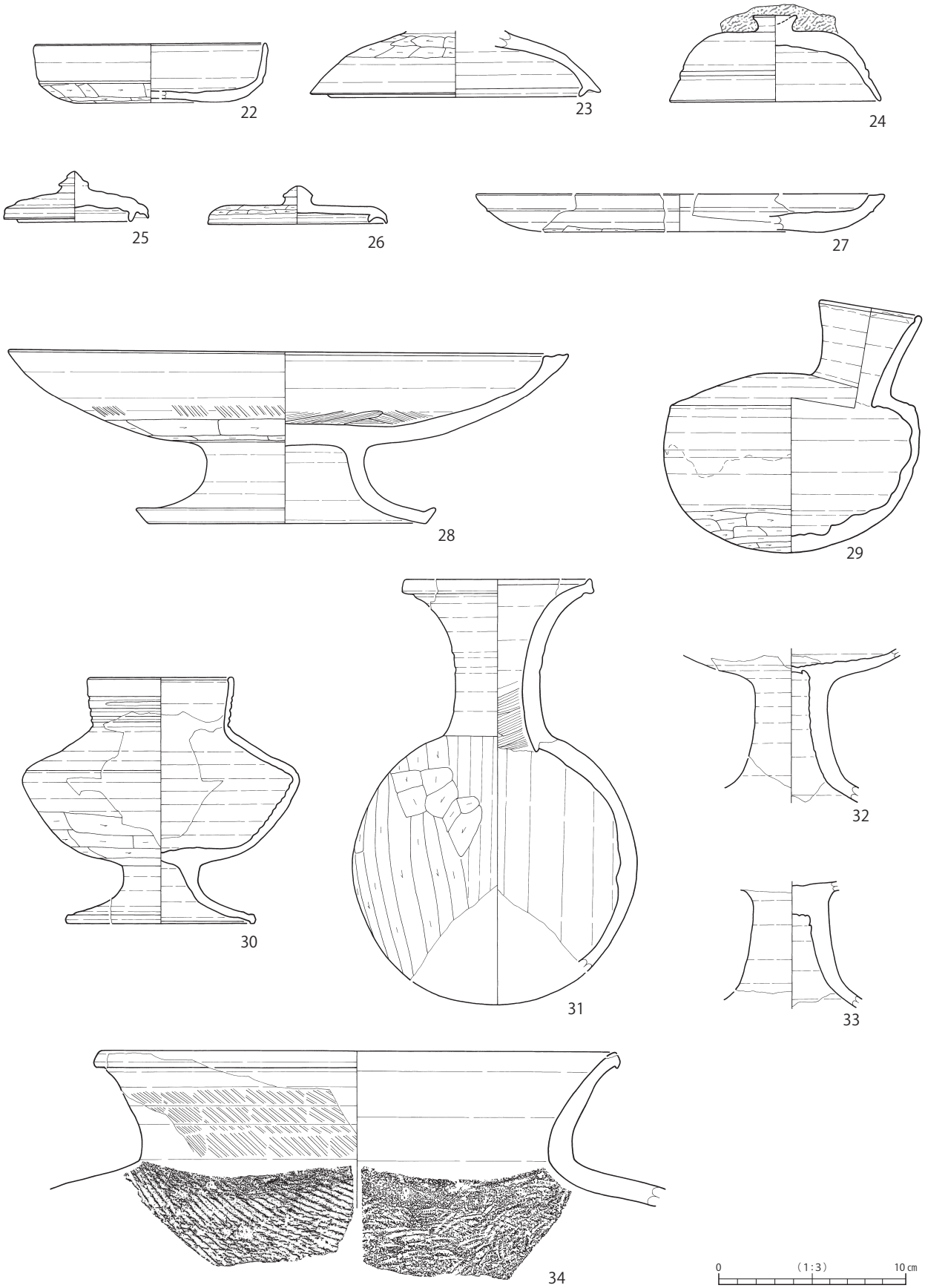
遺構名	層位	土色	土性	備考
SD 1 A - A'	1	7.5Y2/1 黒色	シルト	下部で砂を少量含む。
	2a	7.5GY4/1 暗緑灰色	砂質シルト	水成堆積。砂粒は上部で粗く、下部で細かい。下部で炭化物粒を少量含む。薄い層が何層も重なり堆積。
	2b	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	酸化鉄を含む。東半で5Y3/1 オリーブ黒色土が層状に、5Y4/2 灰オリーブ色砂が帯状に堆積。
	3a	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	上部で5Y4/2 灰オリーブ色砂質シルトブロック・5Y2/1 黒色シルトブロックを斑状に含む。
	3b	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	10Y5/2 オリーブ灰色土ブロック・7.5Y3/1 オリーブ黒色土ブロックを多量含む。7.5Y4/2 灰オリーブ色粘土質シルトが層状に堆積。
	4	7.5Y4/1 灰色	シルト	酸化鉄を全体に含む。2.5Y2/1 黒色土を斑状に少量含む。下部に2.5Y6/2 灰黄色土ブロックを多量含む。
	5	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	2.5Y6/2 灰黄色ブロック・酸化鉄を全体に含む。
SD 1 B - B'	1a	5Y2/1 黒色	シルト	径15cm程の礫・10Y6/2 オリーブ灰色土ブロックを含む。
	1b	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	1a層土ブロックを含む。下面で10G3/1 暗緑灰色土が層状に堆積し、砂を微量含む。
	1c	5Y4/1 灰色	砂礫	上部は粒子の粗い砂（10YR5/6　黄褐色）で、下部になるにつれ粒子は細かくなる。砂礫層の間には7.5Y4/1 灰色砂質シルトが薄い層で堆積。
	2	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	水成堆積。7.5Y4/2 灰オリーブ色砂質シルトが薄く何層も重なり堆積。1c層に比べ粒子の細かい砂質。炭化物粒・酸化物を少量含む。下面は粘土質シルト。
	3a	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y2/1 黒色土ブロック・7.5Y4/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。
	3b	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。3a層に比べて明るい。
	4a	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	10YR2/1 黒色土ブロック・2.5Y6/2 灰黄色土ブロックを全体に含む。壁際でグライ化した7.5Y4/2 灰オリーブ色土を含む。西側の壁際下面で黒色土・灰色土ブロックを含む。7.5YR4/6 褐色酸化鉄が層状に堆積。
	4b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	2.5Y6/2 灰黄色土ブロック・酸化鉄を全体に含む。
SD 1 C - C'	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	径5～8cm程の礫を微量含む。
	2a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	水成堆積。酸化鉄を全体に含む。下面で2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土が薄い層状に堆積。
	2b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
	3a	2.5Y3/2 黒褐色土	シルト	7.5YR4/6 褐色土ブロック・2.5Y2/1 黒色土ブロック・2.5Y5/3 黄褐色土ブロックを全体に含む。グライ化顕著。
	3b	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。2.5Y5/3 黄褐色土ブロック・2.5Y2/1 黒色土ブロックを多量含む。壁際は酸化鉄の影響で全体的に赤化。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	2.5Y6/2 灰黄色土ブロックを全体に多量、酸化鉄を含む。
SD 1 D - D'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	水成堆積。酸化鉄を全体に少量含む。下部で5Y6/2 灰オリーブ色砂が薄く層状に堆積。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	水成堆積。酸化鉄を全体に少量含む。下部で2.5Y3/1 黒褐色土・2.5Y4/1 黄灰色土が層状に堆積。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色土・5Y5/3 灰オリーブ色土を全体に含む。
	4	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色土・2.5Y2/1 黒色土を全体に含む。壁際で酸化鉄の影響を受けた7.5YR4/6 褐色土が堆積。
	5	5Y5/1 灰色	粘土質シルト	2.5Y6/2 灰黄色土ブロックを全体に多量含む。北側で7.5YR4/6 褐色酸化鉄が層状に堆積。
SD 1 E - E'	1	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	酸化鉄を全体に少量含む。
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	水成堆積。酸化鉄を全体に少量含む。5Y5/1 灰色土が層状に堆積。
	3a	5Y4/2 灰オリーブ色	粘土質シルト	酸化鉄を含む。グライ化顕著。
	3b	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	7.5YR5/6 明褐色酸化鉄が層状に堆積。壁際で5Y5/3 灰オリーブ色土を含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロック・2.5Y6/2 灰黄色土ブロック・酸化鉄を全体に含む。
SD 2 A - A'	1	5Y2/1 黒色	シルト	上部で2.5Y4/3 オリーブ褐色土・5Y3/1 オリーブ黒色土の混土ブロックを含む。下部で2.5Y4/3 オリーブ褐色土・7.5YR5/6 明褐色土・2.5GY5/1 オリーブ灰色土がレンズ状に堆積。
	2	7.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	10GY5/1 緑灰色粘土質シルトが薄く層状に堆積。
SD 2 B - B'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	10GY4/1 暗緑灰色土ブロックを含む。
	2	5Y2/1 黒色	粘土質シルト	
SD 2 C - C'	1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y2/1 黒色土ブロックを少量、酸化鉄を微量含む。
	2	10Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。10Y4/2 オリーブ灰色土が層状に堆積。
	3	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	10Y4/2 オリーブ灰色土ブロックを少量含む。
SD 3 A - A'	1	7.5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	5Y4/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。
	2	5Y2/1 黒色	粘土質シルト	壁際で5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを含む。
SD 3 B - B'	1	5Y2/1 黒色	粘土質シルト	5Y3/2 オリーブ黒色土ブロックを少量含む。
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	上面で径8cm程の礫を含む。
SD 4 A - A'	1	10YR3/1 黒褐色土・10YR5/3 にぶい黄褐色土のブロック層	シルト	10YR4/2 灰黄褐色土ブロックを含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色土・10Y4/2 オリーブ灰色土のブロック層	シルト	
SD 5 A - A'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y4/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含む。
SD 5 B - B'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	壁際で5Y4/2 灰オリーブ色土ブロックを少量含む。
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロック・2.5Y5/2 暗灰黄色土ブロックを全体に含む。酸化鉄・炭化物粒を微量含む。
	3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	2.5Y6/2 灰黄色土ブロック・2.5Y5/2 暗灰黄色土ブロックを全体に多量含み、酸化鉄を全体に含む。壁際は酸化鉄の影響を受け、7.5YR5/6 明褐色土が堆積。
SD 5 E - E'	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄を微量含む。
	2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を全体に含む。5Y5/3 灰オリーブ色土粒・酸化鉄を少量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に多量含む。酸化鉄・炭化物粒を微量含む。
	4	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	2.5Y2/1 黒色土・酸化鉄を微量含む。
SD6 A - A'	1	5Y2/2 オリーブ黒色	シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを少量含む。
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	5Y4/3 暗オリーブ色土ブロックを全体に含む。
	3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	南側の壁際で10Y4/2 オリーブ灰色土を含む。
	4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。
	5	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	5Y5/3 灰オリーブ色土ブロックを全体に多量含む。
SD 6 B - B'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	北・南側で7.5Y5/2 灰オリーブ色土ブロック、中央で2.5Y6/2 灰黄色土を多量含む。酸化鉄を斑状に多量含む。
SD 6 C - C'	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	酸化鉄・炭化物粒を微量含む。
	2	5Y3/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	10Y5/2 オリーブ灰色土ブロックを含む。酸化鉄を微量含む。
	3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	10Y5/2 オリーブ灰色土ブロック・5Y6/2 灰オリーブ色土ブロックを全体に含む。酸化鉄を少量含む。
	4	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	7.5Y5/2 灰オリーブ色土ブロック・2.5Y5/2 暗灰黄色土ブロックを多量含む。
SD 6 PIT1	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	柱痕跡。
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	5Y4/2 灰オリーブ色土を全体に含む。酸化鉄を少量含む。
	3	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	5Y3/1 オリーブ黒色土ブロックを含む。酸化鉄を少量含む。



第 26 図　SD1 溝跡出土遺物（1）



第 27 図　SD1 溝跡出土遺物（2）



第 28 図　SD1 溝跡出土遺物（3）